

Ⅲ 県外観光客動態調査

1 概要

● はじめに

本調査は、観光施策の基礎資料とすることを目的に、高知県内の観光地 10 地点で四季ごとにアンケート調査を実施し、結果をとりまとめたものである。

調査精度の均一化を図るため、調査員による対面聞き取り方式のアンケート調査を実施。時間帯も 10 時から 17 時頃まで偏りがないように調整しながら調査している。あわせて 1 グループに 1 名 (1 回答) を徹底した。

なお、暦年調査のため、四季別データは冬春夏秋の順で表示した。

● 調査場所 (10 地点)

室戸岬、モネの庭、アンパンマンミュージアム、龍河洞、高知城、桂浜、土佐和紙工芸村、黒潮本陣、四万十川、足摺岬

● 調査時期

- ・ 冬季：令和 3 年 1 月 2 日～令和 3 年 3 月 7 日
- ・ 春季：令和 3 年 5 月 2 日～令和 3 年 6 月 20 日
- ・ 夏季：令和 3 年 7 月 17 日～令和 3 年 9 月 19 日
- ・ 秋季：令和 3 年 10 月 9 日～令和 3 年 11 月 6 日

※ 1 日で十分なサンプル数を得ることができなかった調査地では複数日で調査を行っている。

- ・ 冬季：モネの庭、アンパンマンミュージアム、高知城、土佐和紙工芸村、黒潮本陣、足摺岬 (各 2 日間)、龍河洞 (3 日間)
- ・ 春季：アンパンマンミュージアム、土佐和紙工芸村 (各 2 日間)
- ・ 夏季：モネの庭、土佐和紙工芸村 (各 2 日間)、アンパンマンミュージアム (3 日間)
- ・ 秋季：アンパンマンミュージアム (2 日間)

● 調査結果の概要

「2泊3日」、「4泊5日」が過去4年で最大。県内旅行日数は前年比0.1日増で2.1日。

日帰り客と宿泊客の割合（P17：表3-1）は、「2泊3日」が17.5%、「4泊5日」が2.1%と過去4年の調査を通じて最大となり、「日帰り」が32.7%で最小となった。前年比では、「2泊3日」から「4泊5日」までが増加し、「1泊2日」以下の旅行形態が減少となっている。

県内旅行の平均日数（P24：図5-1）は前年から0.1日増加して2.1日となっている。主要な発地ブロック「関東」「近畿」「中国」「四国」はすべて横ばいとなり、「北海道」「東北」などが増加となっている。

「関東」からの入込が増加。近隣の「近畿」「中国」「四国」が減少。

発地ブロック別入込割合（P20：表4-1）では、「四国」が33.3%と過去4年の調査を通じて最小となった。前年比では、「関東」は3.6ポイント増加した一方で、「近畿」「中国」「四国」の近隣3ブロック合計で4.1ポイントの減少となっている。

「1人」旅と「友人知人」との旅行が増加。少人数化が目立つ。

旅行形態割合（P29：表8-1）は、前年比で「家族」が7.5ポイントの減少、その他の旅行形態は増加となっている。同行者数割合（P30：表8-2）は、前年比で「1人」が4.2ポイント、「2～3人」が0.7ポイント増加した一方で、「4～5人」以上の区分はすべて減少となっている。

県内平均消費額は、前年比で1,908円増加の26,202円。

県内平均消費額（P35：図10-1）は、前年比で1,908円増加の26,202円と過去4年の調査を通じて最大となった。四季別（P38：表10-2）では、冬季が1,409円減少したが、その他の時季がすべて1,000円以上の増加となっている。

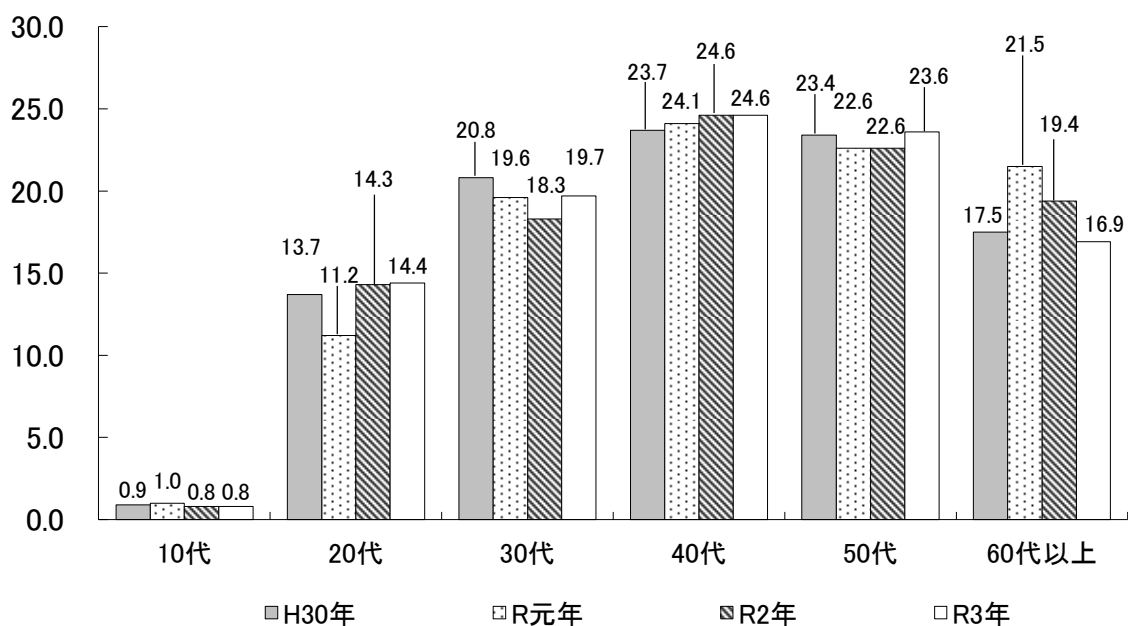
費目ごとの変動（P35：図10-1参考①）は、「土産代」だけが前年比で減少となり、令和元年度からの減少傾向が続いている。

2 年代別入込割合

(表 2-1) 年代別旅行者割合(上段:件 下段:%) [H30~R3年]

	H30年 (n=2,657)	R元年 (n=2,912)	R2年 (n=2,656)	R3年 (n=2,460)	対前年比 R3年/R2年
10 代	24	30	20	20	100.0%
	0.9	1.0	0.8	0.8	
20 代	363	325	379	354	100.7%
	13.7	11.2	14.3	14.4	
30 代	552	570	487	484	107.7%
	20.8	19.6	18.3	19.7	
40 代	629	702	654	604	100.0%
	23.7	24.1	24.6	24.6	
50 代	623	658	601	581	104.4%
	23.4	22.6	22.6	23.6	
60代以上	466	627	515	417	87.1%
	17.5	21.5	19.4	16.9	

(図 2-2) 年代別旅行者割合(%) [H30~R3年]



(表 2-1 参考①) 年代別性別旅行者割合(上段:件 下段:%) [R元年~R3年]

	R元年 (n=2,912)		R2年 (n=2,656)		R3年 (n=2,460)	
	男	女	男	女	男	女
10 代	16	14	13	7	9	11
	58.3	41.7	53.3	46.7	45.0	55.0
20 代	171	154	252	127	233	121
	52.1	47.9	52.6	47.4	65.8	34.2
30 代	364	206	316	171	333	151
	55.2	44.8	63.9	36.1	68.8	31.2
40 代	458	244	445	209	419	185
	63.7	36.3	65.2	34.8	69.4	30.6
50 代	452	206	411	190	420	161
	69.2	30.8	68.7	31.3	72.3	27.7
60代以上	407	220	383	132	313	104
	69.1	30.9	64.9	35.1	75.1	24.9
計	1,868	1,044	1,820	836	1,727	733
	62.5	37.5	64.1	35.9	70.2	29.8

年代別旅行者割合をみると、40代が24.6%と最も多く、次いで50代が23.6%、30代が19.7%と続いている。前年と比べ20代と30代と50代が増加し、10代と40代が横ばい、60代が減少している。

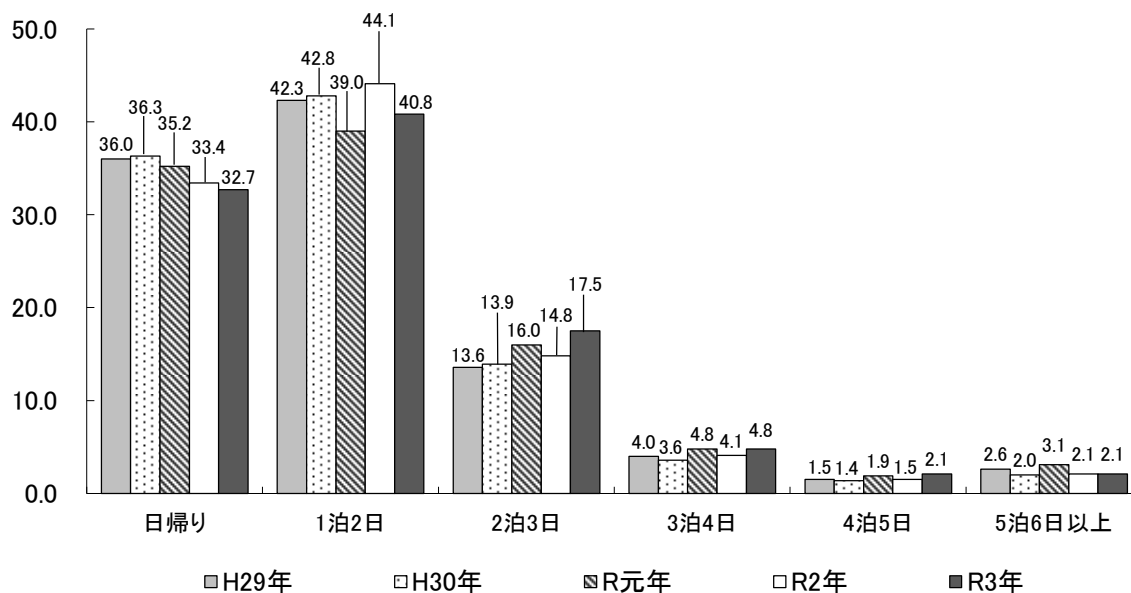
男女比は、男性が70.2%、女性が29.8%となっており、10代で女性の割合が、男性の割合を上回っており、その他の年代で男性の割合が、女性の割合を上回っている。

3 日帰り客と宿泊客割合

(表 3-1) 年次別日帰り客・宿泊客割合(上段:件 下段:%) [H29年~R3年]

	日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日以上
H29年 (n=2,696)	971 36.0	1,141 42.3	367 13.6	107 4.0	41 1.5	69 2.6
H30年 (n=2,657)	964 36.3	1,138 42.8	370 13.9	97 3.6	36 1.4	52 2.0
R元年 (n=2,912)	1,026 35.2	1,135 39.0	466 16.0	140 4.8	54 1.9	91 3.1
R2年 (n=2,656)	888 33.4	1,172 44.1	393 14.8	108 4.1	39 1.5	56 2.1
R3年 (n=2,460)	805 32.7	1,003 40.8	432 17.5	118 4.8	51 2.1	51 2.1

(図 3-2) 年次別日帰り客・宿泊客割合(%) [H29年~R3年]



日帰り客と宿泊客の割合をみると、「1泊2日」が40.8%と最も多く、次いで「日帰り」が32.7%、「2泊3日」が17.5%と続いている。

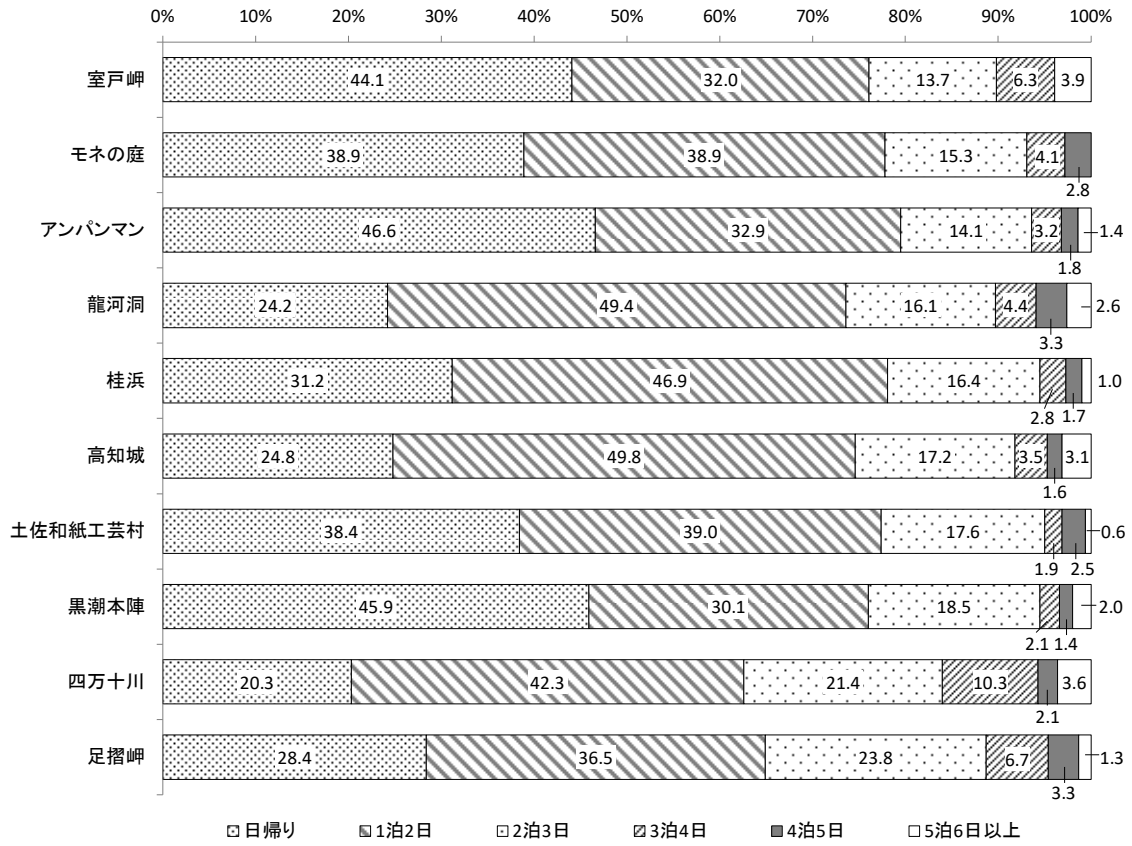
前年と比べ「2泊3日」が2.7ポイント、「3泊4日」が0.7ポイントなどと増加しており、「1泊2日」が3.3ポイント、「日帰り」が0.7ポイント減少している。平成29年度の調査から通してみると、「2泊3日」と「4泊5日」の割合は過去最大、「日帰り」は過去最小となっている。

(表 3-3) 四季別日帰り客・宿泊客割合(上段:件 下段:%) [R2年、R3年]

		日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日以上
冬	R2年	211	293	108	38	14	25
		30.6	42.5	15.7	5.5	2.1	3.6
	R3年	164	189	50	19	14	18
		36.1	41.6	11.0	4.2	3.1	4.0
春	R2年	245	281	71	21	8	10
		38.5	44.2	11.2	3.3	1.2	1.6
	R3年	184	217	121	29	10	12
		32.1	37.9	21.1	5.1	1.7	2.1
夏	R2年	205	279	124	38	11	9
		30.8	41.9	18.6	5.7	1.7	1.3
	R3年	198	298	163	46	20	11
		26.9	40.5	22.1	6.3	2.7	1.5
秋	R2年	227	319	90	11	6	12
		34.1	48.0	13.5	1.7	0.9	1.8
	R3年	259	299	98	24	7	10
		37.2	42.9	14.1	3.4	1.0	1.4

四季別データを前年と比べると、冬季は「日帰り」が5.5ポイント、「4泊5日」が1.0ポイントの増加、「2泊3日」が4.7ポイント、「3泊4日」が1.3ポイントの減少などとなっている。春季は「2泊3日」が9.9ポイントと大きく増加した一方で、「日帰り」が6.4ポイント、「1泊2日」が6.3ポイントの減少となっている。夏季は「2泊3日」以上の項目が増加、「日帰り」と「1泊2日」が減少となっている。秋季は「日帰り」が3.1ポイント、「3泊4日」が1.7ポイントの増加、「1泊2日」が5.1ポイントの減少などとなっている。

(図 3-4) 調査地別日帰り客・宿泊客割合(%) [R3 年]



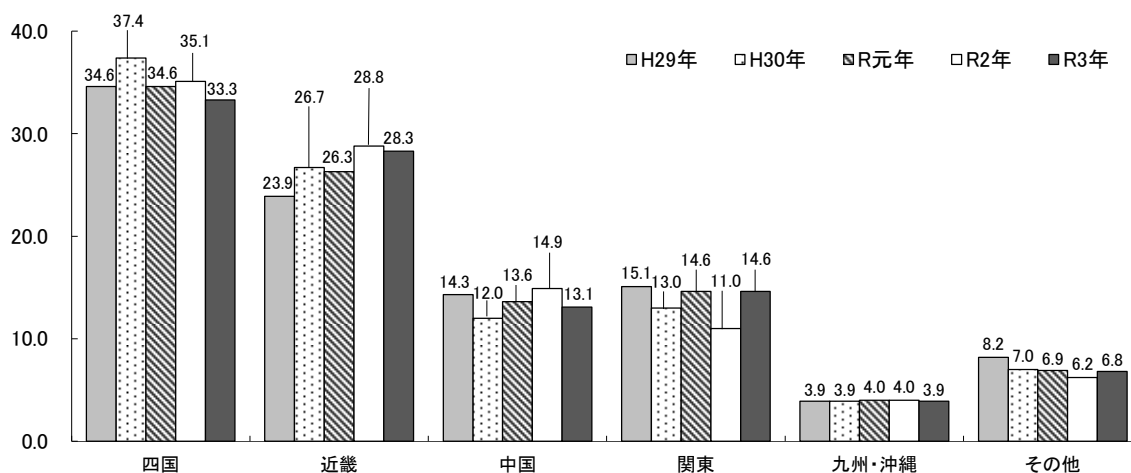
日帰り客と宿泊客の割合を調査地別にみると、「日帰り」の割合はアンパンマンミュージアムが 46.6%と最も多く、次いで黒潮本陣が 45.9%、室戸岬が 44.1%と続いている。また、「1泊2日」は高知城が 49.8%と最も多く、次いで龍河洞が 49.4%、桂浜が 46.9%と続いている。そのほか、「2泊3日」は足摺岬が 23.8%、「3泊4日」は四万十川が 10.3%、「4泊5日」は龍河洞と足摺岬が 3.3%、「5泊6日以上」は室戸岬が 3.9%と、それぞれ最も多くなっている。

4 発地ブロック別入込割合

(表 4-1) 発地ブロック別入込割合(上段:件 下段:%) [H29 年～R3 年]

	四国	近畿	中国	関東	九州・沖縄	その他
H29年 (n=2,696)	932 34.6	645 23.9	386 14.3	407 15.1	104 3.9	222 8.2
H30年 (n=2,657)	995 37.4	710 26.7	318 12.0	345 13.0	103 3.9	186 7.0
R元年 (n=2,912)	1,008 34.6	767 26.3	396 13.6	424 14.6	117 4.0	200 6.9
R2年 (n=2,656)	933 35.1	764 28.8	395 14.9	292 11.0	106 4.0	166 6.2
R3年 (n=2,460)	818 33.3	697 28.3	323 13.1	359 14.6	97 3.9	166 6.8

(図 4-2) 発地ブロック別入込割合(%) [H29 年～R3 年]



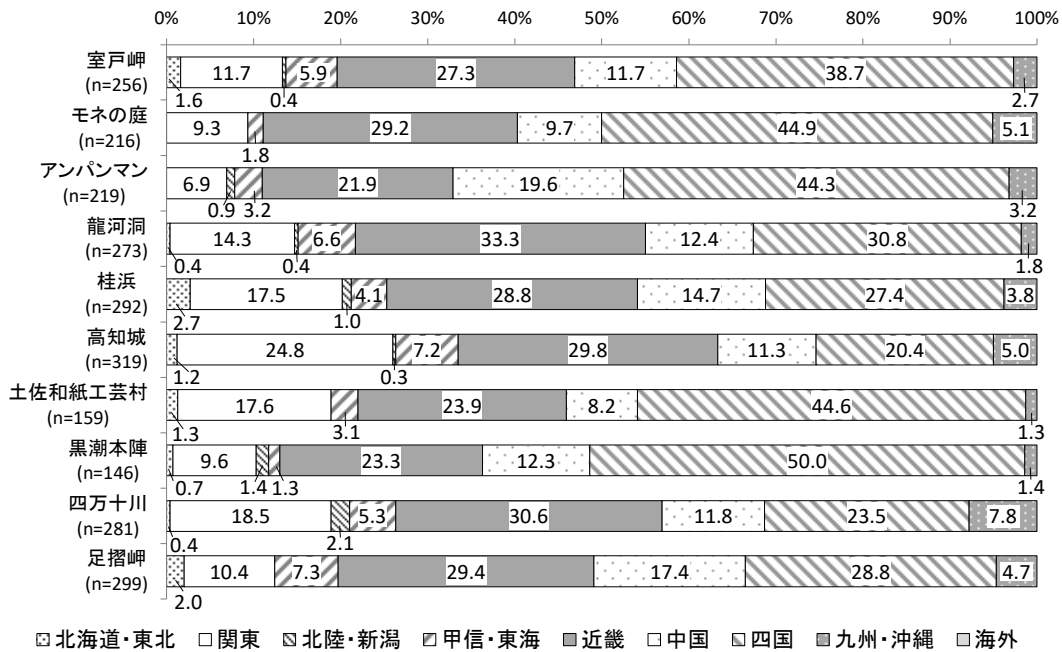
発地ブロック別入込割合をみると、四国が 33.3%と最も多く、次いで近畿が 28.3%、関東が 14.6%と続いている。

前年と比べると、関東が 3.6 ポイント、その他のブロックが 0.6 ポイント増加しており、四国と中国が 1.8 ポイント、近畿が 0.5 ポイント減少している。平成 29 年度の調査から通してみると、四国の割合は過去最小となっている。

(表 4-1 参考①) 発地ブロック別入込割合(上段:件 下段:%)[H29年~R3年 全地区データ]

	四国	近畿	中国	関東	九州・沖縄	甲信・東海	北陸・新潟	東北	北海道	海外
H29年 (n=2,696)	932 34.6	645 23.9	386 14.3	407 15.1	104 3.9	152 5.6	15 0.6	21 0.8	11 0.4	23 0.8
H30年 (n=2,657)	995 37.4	710 26.7	318 12.0	345 13.0	103 3.9	123 4.6	20 0.8	20 0.8	17 0.6	6 0.2
R元年 (n=2,912)	1,008 34.6	767 26.3	396 13.6	424 14.6	117 4.0	127 4.4	21 0.7	18 0.6	23 0.8	11 0.4
R2年 (n=2,656)	933 35.1	764 28.8	395 14.9	292 11.0	106 4.0	121 4.5	23 0.9	11 0.4	10 0.4	1 0.0
R3年 (n=2,460)	818 33.3	697 28.3	323 13.1	359 14.6	97 3.9	123 5.0	16 0.7	13 0.5	14 0.6	0 0.0

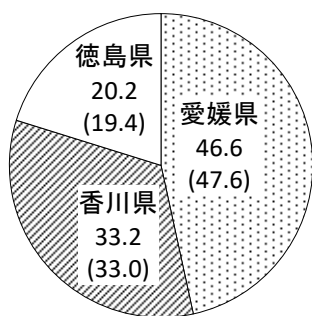
(図 4-1 参考②) 調査地別発地ブロック別入込割合(%) [R3年]



調査地別に発地ブロック別入込割合をみると (P21: 図 4-1 参考②、P23: 表 4-1 参考③)、高知城は近畿・関東、龍河洞と桂浜と四万十川と足摺岬は近畿・四国、その他の5地点は四国・近畿の順で多くなっている。

四国・中国・近畿の近隣3ブロック合計で占める割合は、アンパンミュージアムが85.8%と最も多く、次いで黒潮本陣が85.6%、モネの庭が83.8%と続いている。また、関東・近畿ブロックの合計は、高知城が54.6%と最も多く、次いで四万十川が49.1%、龍河洞が47.6%と続いている。

(図 4-3) ブロック別・四国(%)

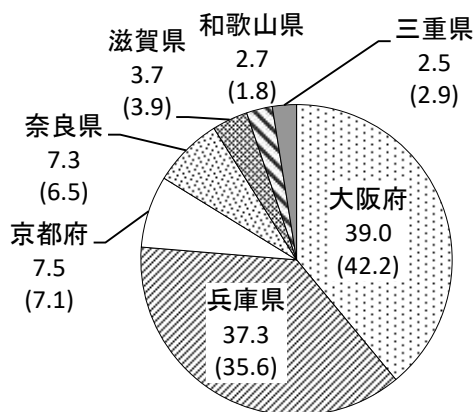


()内の数値は R2 年

前年と比べ、徳島が 0.8 ポイント、香川が 0.2 ポイント増加しており、愛媛が 1.0 ポイント減少となっている。

愛媛は全体の入込割合で一位、また土佐和紙工芸村など 4 つの調査地において入込割合の一位となっている。香川は全体の二位、アンパンマンミュージアムで一位となっている。徳島は全体の六位、室戸岬で一位となっている (P23 : 表 4-1 参考③)。

(図 4-4) ブロック別・近畿(%)

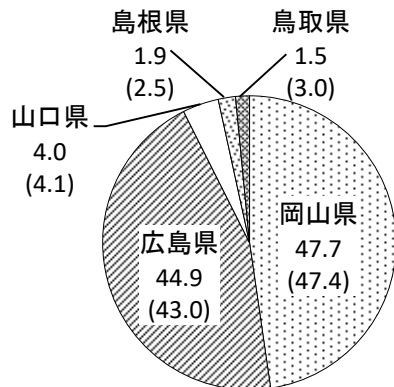


()内の数値は R2 年

前年と比べ、兵庫が 1.7 ポイント、和歌山が 0.9 ポイント、奈良が 0.8 ポイント、京都が 0.4 ポイント増加しており、大阪が 3.2 ポイント、三重が 0.4 ポイント、滋賀が 0.2 ポイント減少となっている。大阪と兵庫で 76.3%と、近畿ブロックの四分之三を占めている。

大阪は全体の入込割合で二位、龍河洞と四万十川で一位、足摺岬で二位となっており、兵庫は全体の四位、高知城など 3 地点で二位となっている (P23 : 表 4-1 参考③)。

(図 4-5) ブロック別・中国(%)



()内の数値は R2 年

前年と比べ、広島が 1.9 ポイント、岡山が 0.3 ポイント増加しており、鳥取が 1.5 ポイント、島根が 0.6 ポイント、山口が 0.1 ポイント減少となっている。岡山と広島の 2 県で 92.6%と、中国ブロックの大半を占めている。

岡山は全体の入込割合で七位、広島は全体の八位となっている (P23 : 表 4-1 参考③)。

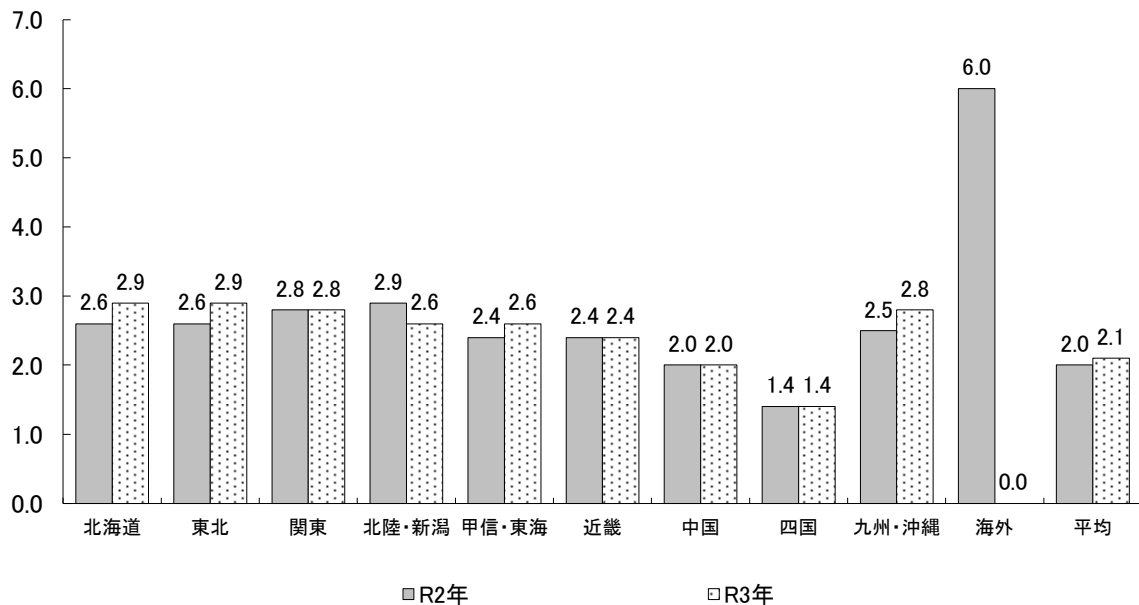
(表 4-1 参考③) 調査地別発地都道府県入込割合(件) [R3 年]

	室戸岬	モネの庭	アンパンマン	龍河洞	桂浜	高知城	土佐和紙工芸村	黒潮本陣	四万十川	足摺岬	全体	順位	
県外合計	256	216	219	273	292	319	159	146	281	299	2,460	-	
北海道・東北	北海道	2	0	0	0	2	3	2	1	1	3	14	
	青森県	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
	岩手県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	宮城県	1	0	0	0	2	0	0	0	0	2	5	
	秋田県	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	
	山形県	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	福島県	0	0	0	0	2	1	0	0	0	1	4	
北海道・東北計	4	0	0	1	8	4	2	1	1	6	27	-	
関東	茨城県	1	1	1	2	2	0	0	0	0	0	7	
	栃木県	0	0	1	1	0	0	2	0	1	0	5	
	群馬県	1	0	1	1	1	0	0	0	1	0	5	
	埼玉県	2	2	3	4	5	9	3	1	8	4	41	
	千葉県	4	1	0	3	7	7	6	0	6	3	37	
	東京都	18	13	7	20	20	42	14	7	21	19	181	5
	神奈川県	4	3	2	8	16	21	3	6	15	5	83	10
関東計	30	20	15	39	51	79	28	14	52	31	359	-	
北陸・新潟	新潟県	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2	
	富山県	0	0	0	0	2	0	0	1	2	0	5	
	石川県	1	0	2	1	0	1	0	0	1	0	6	
	福井県	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	3	
北陸・新潟計	1	0	2	1	3	1	0	2	6	0	16	-	
甲信・東海	山梨県	0	1	0	0	0	1	0	0	1	2	5	
	長野県	0	0	0	1	0	3	0	0	1	1	6	
	岐阜県	5	0	1	0	1	3	0	0	2	2	14	
	静岡県	3	0	1	2	1	1	1	0	0	3	12	
	愛知県	7	3	5	15	10	15	4	2	11	14	86	9
甲信・東海計	15	4	7	18	12	23	5	2	15	22	123	-	
近畿	三重県	2	1	1	0	3	4	1	0	1	4	17	
	滋賀県	2	2	2	1	2	5	2	1	6	3	26	
	京都府	6	7	4	8	3	6	4	1	8	5	52	
	大阪府	24	18	21	42	32	33	11	15	37	39	272	2
	兵庫県	24	26	15	33	38	41	18	14	26	25	260	4
	奈良県	10	6	2	3	6	6	2	2	7	7	51	
	和歌山県	2	3	3	4	0	0	0	1	1	5	19	
近畿計	70	63	48	91	84	95	38	34	86	88	697	-	
中国	鳥取県	0	0	0	2	0	0	0	0	1	2	5	
	島根県	0	0	1	0	2	1	0	0	0	2	6	
	岡山県	17	12	27	16	22	11	5	8	14	22	154	7
	広島県	12	9	14	15	17	21	8	9	16	24	145	8
	山口県	1	0	1	1	2	3	0	1	2	2	13	
中国計	30	21	43	34	43	36	13	18	33	52	323	-	
四国	徳島県	42	23	19	18	17	16	8	6	4	12	165	6
	香川県	32	37	41	28	22	26	9	21	26	30	272	2
	愛媛県	25	37	37	38	41	23	54	46	36	44	381	1
四国計	99	97	97	84	80	65	71	73	66	86	818	-	
九州・沖縄	福岡県	4	9	5	4	5	10	2	0	14	9	62	11
	佐賀県	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	3	
	長崎県	0	0	0	1	0	1	0	0	2	0	4	
	熊本県	0	0	0	0	2	1	0	1	4	1	9	
	大分県	1	1	0	0	2	2	0	1	1	2	10	
	宮崎県	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	3	
	鹿児島県	2	0	1	0	1	1	0	0	0	0	5	
沖縄県	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
九州・沖縄計	7	11	7	5	11	16	2	2	22	14	97	-	
海外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
高知県	144	184	181	127	108	81	241	254	119	101	1,540	-	

5 旅行日数

5.1 発地ブロック別県内旅行日数

(図 5-1) 発地ブロック別県内旅行日数(日) [R2 年、R3 年]



県内旅行日数の平均は、前年と比べ0.1日増加の2.1日となっている。

発地ブロック別にみると、北海道と東北が2.9日で最も多く、次いで関東と九州・沖縄が2.8日、北陸・新潟と甲信・東海が2.6日と続いている。前年と比べ、北海道や東北などの4地点が増加しており、関東や近畿などの4地点は横ばい、北陸・新潟は減少となっている。

5.2 年代別旅行日数

(表 5-2) 年代別県内旅行日数〔加重平均〕(日)〔H29年～R3年〕

	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年
10代	2.1	2.2	2.1	2.1	2.1
20代	2.0	2.1	2.2	2.0	2.2
30代	2.0	2.0	2.1	2.1	2.2
40代	2.0	2.0	2.3	2.1	2.1
50代	1.9	1.9	2.0	2.0	2.0
60代以上	2.1	1.9	2.0	2.0	2.0
全体	2.0	2.0	2.1	2.0	2.1

年代別の県内旅行日数は、20代、30代が2.2日、10代、40代が2.1日、その他の年代が2.0日となっている。

前年と比べ、20代が0.2日、30代が0.1日増加、その他の年代は横ばいとなっている。

6 旅行形態別旅行目的割合

(表 6-1) 旅行形態別旅行目的割合(%) [H 元年～R3 年]

		自然見物・町歩き	休養・慰安	イベント	アウトドア	スポーツ	食べ物	神仏霊場巡り	買い物	名所旧跡観光施設	なんとなく	ワーケーション	帰省・仕事	その他
1人	R元年	16.1	3.7	3.2	5.7	0.0	7.7	8.2	1.0	14.7	16.9	0.0	20.6	2.2
	R2年	18.1	1.9	1.4	2.2	0.5	9.4	8.6	1.6	19.1	21.3	0.0	14.3	1.6
	R3年	17.0	1.8	4.5	2.5	0.4	11.2	8.0	0.0	15.8	19.6	0.0	17.0	2.2
家族	R元年	20.3	4.8	3.4	4.1	0.5	18.3	4.0	2.8	26.9	2.9	0.0	10.4	1.6
	R2年	18.9	4.2	0.6	4.2	0.2	20.3	5.4	3.2	28.7	3.7	0.0	9.6	1.0
	R3年	25.5	4.9	0.6	4.7	0.4	20.0	4.3	2.9	24.0	3.5	0.0	8.6	0.6
友人知人	R元年	20.5	5.6	4.9	7.6	0.0	23.2	1.0	1.5	20.8	9.5	0.0	3.7	1.7
	R2年	24.1	2.6	0.0	7.7	0.6	24.9	2.9	1.4	18.6	14.6	0.0	2.3	0.3
	R3年	22.7	1.8	0.8	4.8	0.3	31.6	2.0	0.3	16.6	13.0	0.0	5.6	0.5
団体	R元年	14.6	16.7	2.1	0.0	0.0	12.5	2.1	0.0	16.7	0.0	0.0	27.0	8.3
	R2年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	75.0	0.0
	R3年	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
その他	R元年	11.5	3.9	7.7	11.5	0.0	19.2	0.0	0.0	19.2	3.9	0.0	23.1	0.0
	R2年	18.2	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	45.4	0.0	0.0	27.3	0.0
	R3年	15.0	0.0	0.0	10.0	0.0	15.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	40.0	10.0
全体	R元年	19.6	5.0	3.6	4.8	0.4	17.4	4.1	2.3	24.1	5.7	0.0	11.2	1.8
	R2年	19.5	3.7	0.6	4.3	0.3	19.3	5.5	2.7	26.1	7.6	0.0	9.4	1.0
	R3年	23.4	3.9	1.3	4.4	0.4	20.2	4.6	1.9	21.1	7.9	0.0	10.0	0.9

旅行目的の全体割合をみると、「自然見物・町歩き」が前年から3.9ポイント増加の23.4%で最も多く、次いで「名所旧跡・観光施設」が5.0ポイント減少の21.1%、「食べ物」が0.9ポイント増加の20.2%と続いている。

令和元年度の調査から通してみると、「自然見物・町歩き」、「食べ物」、「なんとなく」は過去最大、「買い物」、「名所旧跡・観光施設」、「その他」は過去最小となっている。

旅行形態別に旅行目的を前年と比べると、“一人旅”では、「イベント」が3.1ポイント増加、「名所旧跡・観光施設」が3.3ポイント減少となっている。“家族旅行”では、「自然見物・町歩き」が6.6ポイント増加、「名所旧跡・観光施設」が4.7ポイント減少となり、“友人・知人との旅行”では、「食べ物」が6.7ポイント増加、「アウトドア」が2.9ポイント減少、“団体”では、「自然見物・町歩き」、「休養・慰安」、「食べ物」が16.7ポイント増加、「名所旧跡・観光施設」、「帰省・仕事」が25.0ポイント減少となっている。

7 入込利用交通機関割合

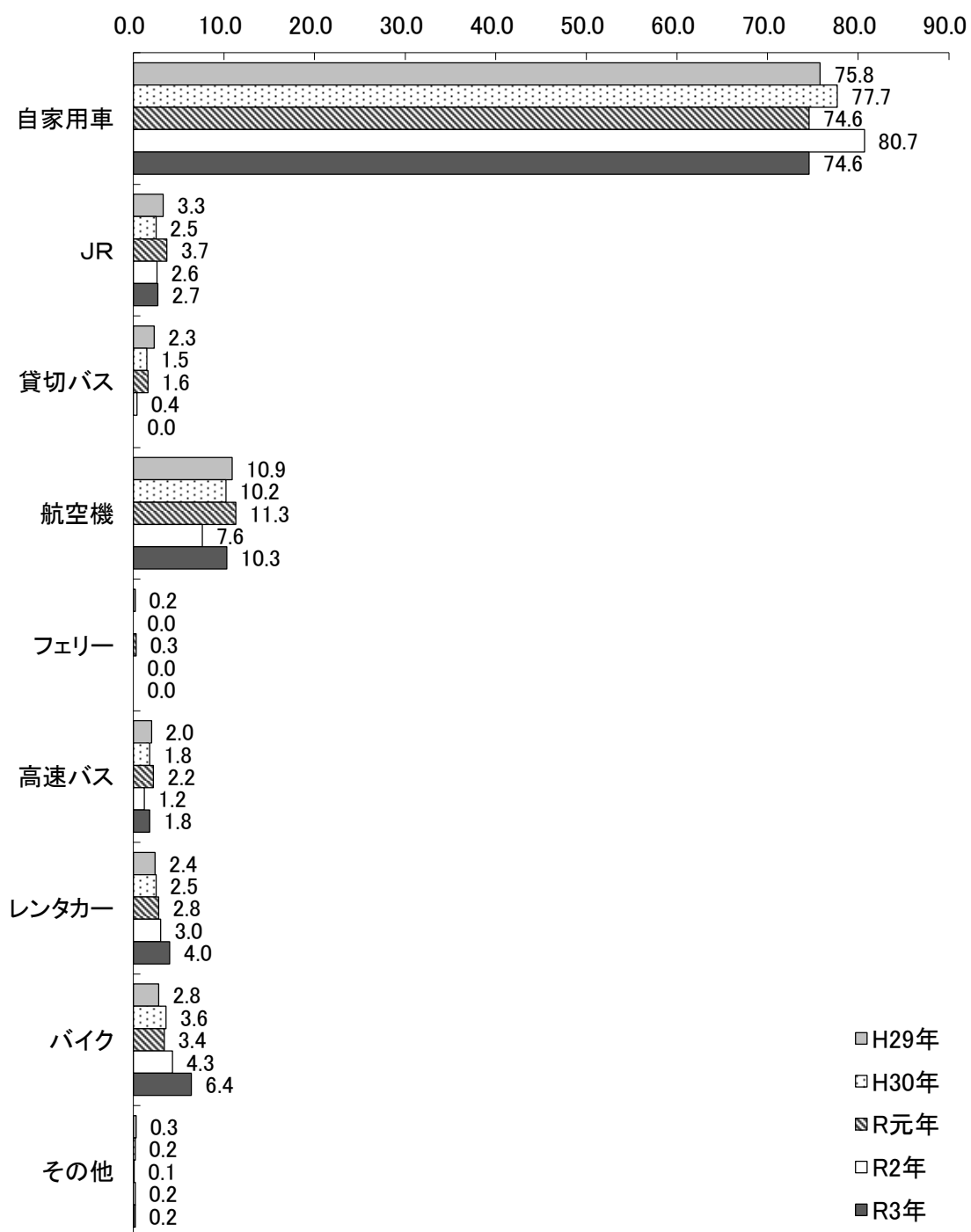
(表 7-1) 入込利用交通機関別割合(上段:件 下段:%) [H29 年～R3 年]

	自家用車	JR	貸切バス	航空機	フェリー	高速バス	レンタカー	バイク	その他
H29年	2,044	90	61	294	4	54	65	75	9
(n=2,696)	75.8	3.3	2.3	10.9	0.2	2.0	2.4	2.8	0.3
H30年	2,064	65	40	270	0	49	67	97	5
(n=2,657)	77.7	2.5	1.5	10.2	0.0	1.8	2.5	3.6	0.2
R元年	2,173	106	46	330	8	66	82	98	3
(n=2,912)	74.6	3.7	1.6	11.3	0.3	2.2	2.8	3.4	0.1
R2年	2,144	70	9	202	1	31	80	115	4
(n=2,656)	80.7	2.6	0.4	7.6	0.0	1.2	3.0	4.3	0.2
R3年	1,834	67	1	254	0	43	98	157	6
(n=2,460)	74.6	2.7	0.0	10.3	0.0	1.8	4.0	6.4	0.2

入込利用交通機関は、「自家用車」が前年から6.1ポイント減少の74.6%で最も多く、次いで「航空機」が2.7ポイント増加の10.3%、「バイク」が2.1ポイント増加の6.4%と続いている。

平成29年度の調査から通してみると、「レンタカー」「バイク」は過去最大、「貸切バス」は過去最小となっている。

(図 7-2) 入込利用交通機関別割合(%) [H29年~R3年]



8 旅行形態割合

(表 8-1) 年代別旅行形態割合(%) [R2年、R3年]

		1人	家族	友人知人	団体	その他
10代	R2年 (n=20)	10.0	60.0	30.0	0.0	0.0
	R3年 (n=20)	20.0	50.0	30.0	0.0	0.0
20代	R2年 (n=379)	16.4	38.5	44.8	0.0	0.3
	R3年 (n=354)	20.9	27.4	50.6	0.3	0.8
30代	R2年 (n=487)	10.9	74.3	14.6	0.2	0.0
	R3年 (n=484)	14.7	66.3	17.8	0.0	1.2
40代	R2年 (n=654)	13.8	79.8	5.8	0.3	0.3
	R3年 (n=604)	15.4	74.7	8.6	0.5	0.8
50代	R2年 (n=601)	14.1	79.0	6.2	0.0	0.7
	R3年 (n=581)	22.0	70.1	6.7	0.3	0.9
60代以上	R2年 (n=515)	15.3	78.5	5.2	0.2	0.8
	R3年 (n=417)	18.7	73.9	7.2	0.0	0.2
全体	R2年 (n=2,656)	14.0	72.3	13.1	0.2	0.4
	R3年 (n=2,460)	18.2	64.8	15.9	0.3	0.8

旅行形態割合をみると、「家族」が64.8%で最も多く、次いで「1人」が18.2%、「友人知人」が15.9%、「その他」が0.8%、「団体」が0.3%と続いている。

前年と比べ、「1人」が4.2ポイント、「友人知人」が2.8ポイント、「その他」が0.4ポイント、「団体」が0.1ポイント増加しており、「家族」が7.5ポイント減少となっている。

年代別に旅行形態をみると、20代を除くすべての年代で「家族」が最も多く、20代は「友人知人」が最も多くなっている。

(表 8-2) 年代別同行者数割合(%) [R2年、R3年]

		1人	2~3人	4~5人	6~10人	11人以上
10代	R2年 (n=20)	10.0	65.0	25.0	0.0	0.0
	R3年 (n=20)	20.0	50.0	20.0	10.0	0.0
20代	R2年 (n=379)	16.4	66.2	15.0	2.4	0.0
	R3年 (n=354)	20.9	70.1	7.3	1.4	0.3
30代	R2年 (n=487)	10.9	57.9	27.3	3.7	0.2
	R3年 (n=484)	14.7	57.4	25.6	2.1	0.2
40代	R2年 (n=654)	13.8	57.8	25.7	2.4	0.3
	R3年 (n=604)	15.4	62.7	19.9	1.8	0.2
50代	R2年 (n=601)	14.1	71.7	12.3	1.7	0.2
	R3年 (n=581)	22.0	66.3	10.0	1.7	0.0
60代以上	R2年 (n=515)	15.3	65.8	13.4	4.5	1.0
	R3年 (n=417)	18.7	68.8	8.4	4.1	0.0
全体	R2年 (n=2,656)	14.0	63.8	19.0	2.9	0.3
	R3年 (n=2,460)	18.2	64.5	14.9	2.3	0.1

同行者数割合をみると、「2~3人」が64.5%で最も多く、次いで「1人」が18.2%、「4~5人」が14.9%、「6~10人」が2.3%、「11人以上」が0.1%と続いている。

前年と比べ、「1人」が4.2ポイント、「2~3人」が0.7ポイント増加しており、「4~5人」が4.1ポイント、「6~10人」が0.6ポイント、「11人以上」が0.2ポイント減少となっている。

年代別にみると、すべての年代で「2~3人」が最も多くなっている。

(表 8-3) 年代別旅行形態・同行者数割合(件) [R3 年]

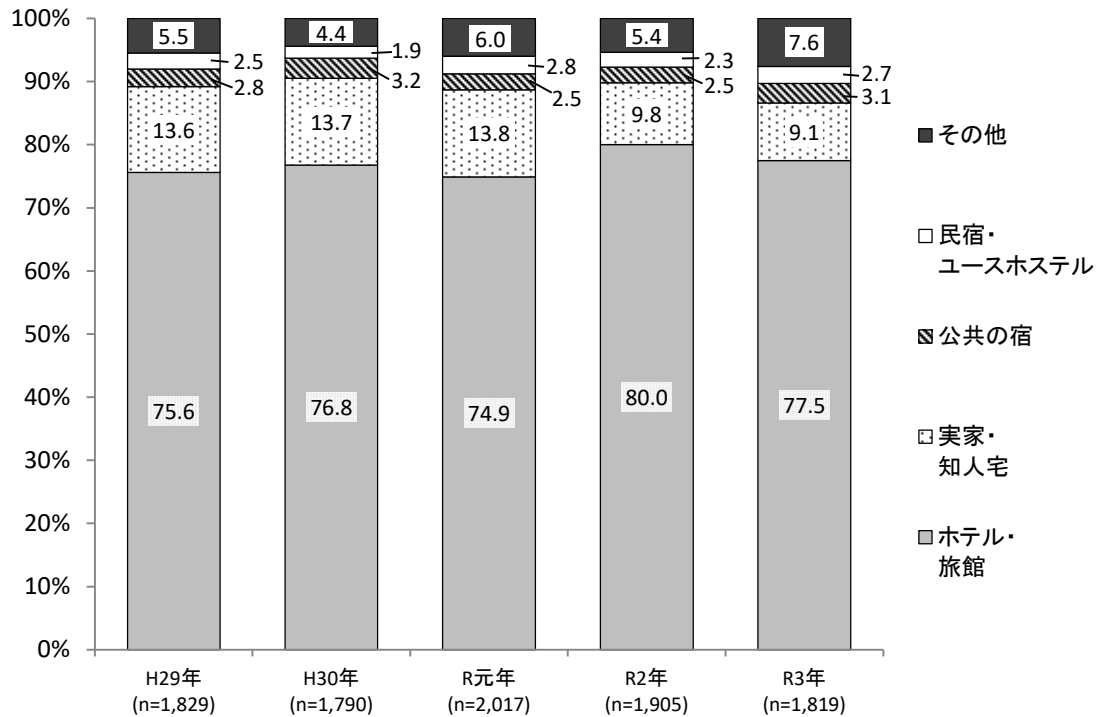
	1人	家族				友人知人				団体				その他			
		2～3人	4～5人	6～10人	11人以上	2～3人	4～5人	6～10人	11人以上	2～3人	4～5人	6～10人	11人以上	2～3人	4～5人	6～10人	11人以上
10代	4	5	3	2		5	1										
20代	74	80	14	3		166	11	2				1	2	1			
30代	71	199	112	10		76	9		1					3	3		
40代	93	334	109	8		41	10	1		1		2		3	1		1
50代	128	351	51	5		30	6	3		1		1		3	1	1	
60代以上	78	267	29	12		20	5	5							1		

年代別に旅行形態と同行者数の関係を見ると、10代と20代を除くすべての年代は「2～3人の家族」が最も多く、10代は「2～3人の家族」と「2～3人の友人知人」、20代は「2～3人の友人知人」が最も多くなっている。

9 宿泊施設割合

9.1 年間

(図 9-1) 県内利用宿泊施設割合(%) [H29年～R3年]



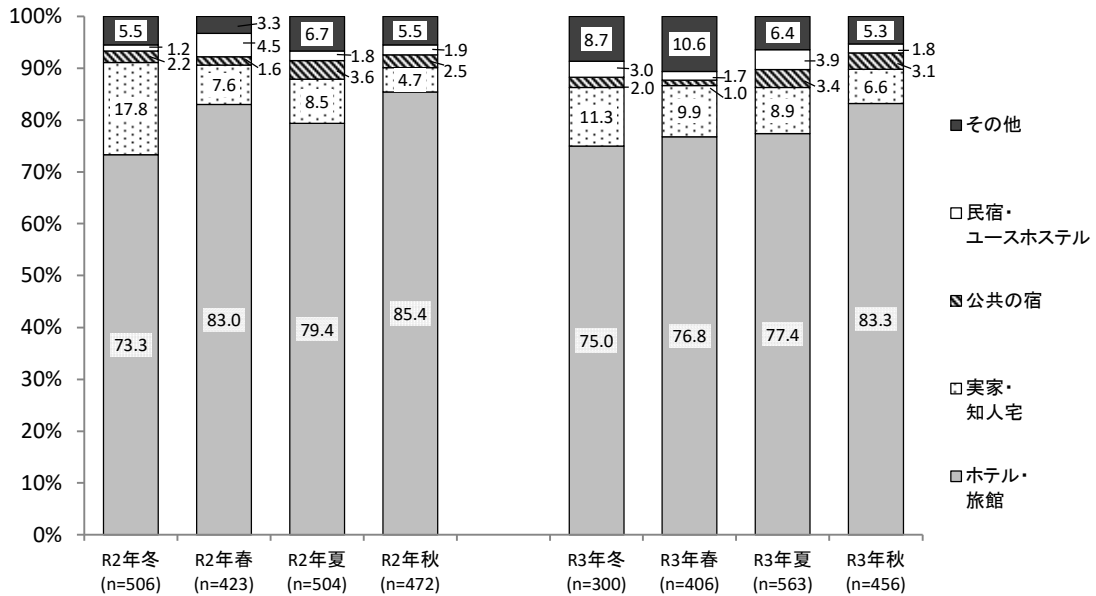
県内で利用された宿泊施設の割合は、「ホテル・旅館」が77.5%で最も多く、次いで「実家・知人宅」が9.1%、「その他」が7.6%、「公共の宿」が3.1%、「民宿・ユースホステル」が2.7%と続いている。

前年と比べ、「その他」が2.2ポイント、「公共の宿」が0.6ポイント、「民宿・ユースホステル」が0.4ポイント増加し、「ホテル・旅館」が2.5ポイント、「実家・知人宅」が0.7ポイント減少している。

平成29年度の調査から通してみると、「その他」は過去最大、「実家・知人宅」は過去最小となっている。

9.2 四季別

(図 9-2) 四季別県内利用宿泊施設割合(%) [H29 年～R3 年]



四季別県内利用宿泊施設の割合をみると、「ホテル・旅館」の占める割合が年間を通じて最も多くなっている。

前年と比べると、冬季を除くすべての調査時期で「ホテル・旅館」の割合が減少となっている。

前年と比べ、1.0ポイントを超えて変動している項目をみると、冬季は「その他」が3.2ポイント、「民宿・ユースホステル」が1.8ポイント、「ホテル・旅館」が1.7ポイント増加し、「実家・知人宅」が6.5ポイント減少となっている。

春季は「その他」が7.3ポイント、「実家・知人宅」が2.3ポイント増加し、「ホテル・旅館」が6.2ポイント、「民宿・ユースホステル」が2.8ポイント減少となっている。

夏季は「民宿・ユースホステル」が2.1ポイント増加し、「ホテル・旅館」が2.0ポイント減少となっている。

秋季は「実家・知人宅」が1.9ポイント増加し、「ホテル・旅館」が2.1ポイント減少となっている。

9.3 年代別宿泊施設割合

(表 9-3) 年代別県内利用宿泊施設割合(%) [R2 年、R3 年]

		ホテル・旅館	実家・知人宅	公共の宿	民宿・ユースホステル	その他
10 代	R2年 (n=15)	53.3	46.7	0.0	0.0	0.0
	R3年 (n=14)	57.1	28.6	7.1	0.0	7.1
20 代	R2年 (n=280)	80.7	7.9	1.1	2.1	8.2
	R3年 (n=279)	79.9	10.8	1.4	2.9	5.0
30 代	R2年 (n=365)	76.7	13.7	2.5	2.2	4.9
	R3年 (n=343)	79.0	12.2	1.5	2.6	4.7
40 代	R2年 (n=485)	80.6	9.3	3.7	1.9	4.5
	R3年 (n=428)	78.3	8.6	2.6	2.8	7.7
50 代	R2年 (n=415)	81.2	9.6	1.2	1.7	6.3
	R3年 (n=398)	79.9	6.0	2.3	2.8	9.1
60代以上	R2年 (n=345)	82.0	6.6	3.8	3.8	3.8
	R3年 (n=263)	75.3	6.5	4.9	2.3	11.0

年代別利用宿泊施設割合をみると、すべての年代で「ホテル・旅館」が最も多くなっている。

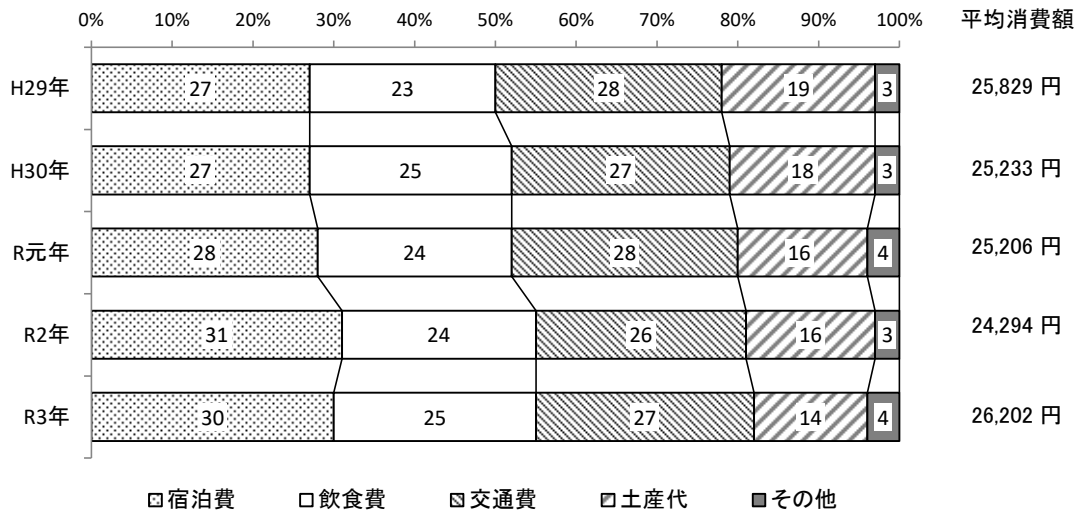
前年と比べ、5.0ポイントを超えて増加している項目は、10代の「公共の宿」と「その他」、60代以上の「その他」となっている。その一方で減少している項目は、10代の「実家・知人宅」、60代以上の「ホテル・旅館」となっている。

10 県内消費額

10.1 県内消費額費目別割合・平均消費額

10.1.1 年間

(図 10-1) 県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [H29年～R3年]



県内消費額の年間平均金額は、前年と比べ1,908円の増加の26,202円となっている。費目別でみると、「宿泊費」が30%と最も多く、次いで「交通費」が27%、「飲食費」が25%と続いている。

(図 10-1 参考①) 県内平均消費額費目別内訳(円) [R元年～R3年]

	宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	合計
R元年	6,997	6,210	7,047	3,997	955	25,206
R2年	7,455	5,960	6,245	3,780	854	24,294
R3年	7,996	6,465	7,134	3,686	921	26,202

費目別の平均消費額を前年と比べると、「交通費」が889円、「宿泊費」が541円、「飲食費」が505円、「その他」が67円増加し、「土産代」が94円減少となっている。

令和元年度の調査から通してみると、「宿泊費」「飲食費」「交通費」は過去最大、「土産代」は過去最小となっている。

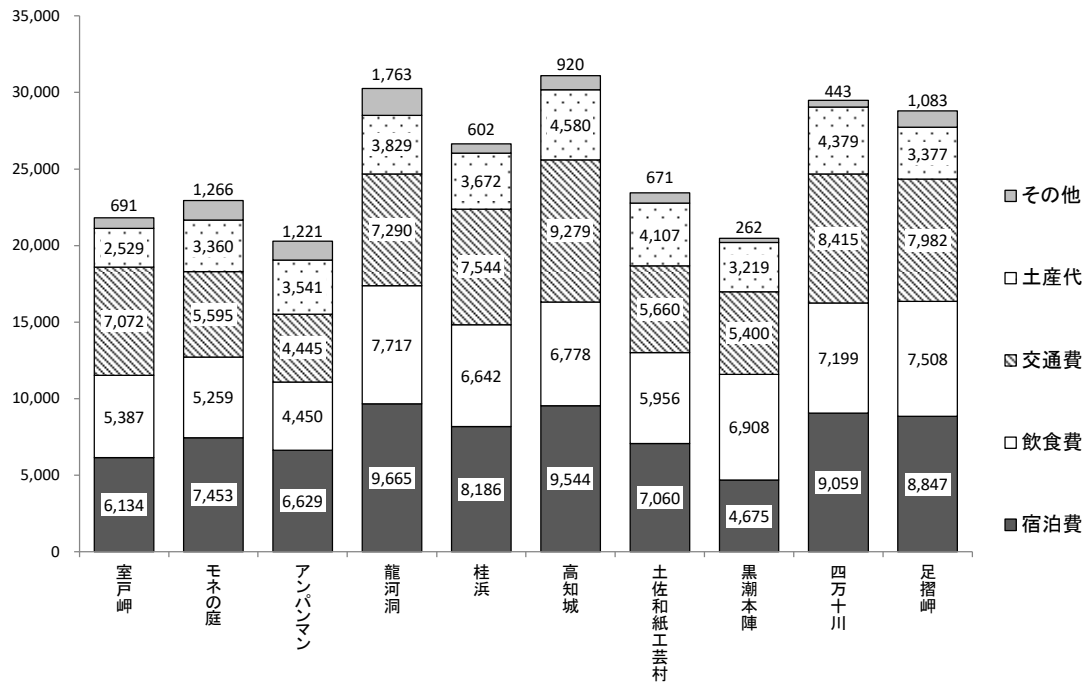
(図 10-1 参考②) 調査地別県内平均消費額(円) [R2年、R3年]

	室戸岬	モネの庭	アンパンマン	龍河洞	桂浜	高知城	土佐和紙工芸村	黒潮本陣	四万十川	足摺岬
R2年	22,280	25,438	18,416	24,708	25,173	29,043	17,971	19,852	26,849	28,359
R3年	21,813	22,933	20,286	30,264	26,646	31,101	23,454	20,464	29,495	28,797
前年との差	▲ 467	▲ 2,505	1,870	5,556	1,473	2,058	5,483	612	2,646	438

調査地別の年間平均消費額をみると、「高知城」が 31,101 円で最も高く、次いで「龍河洞」が 30,264 円、「四万十川」が 29,495 円と続いており、「アンパンマンミュージアム」が 20,286 円で最も低くなっている。

前年と比べ、「龍河洞」が 5,556 円、「土佐和紙工芸村」が 5,483 円の増加となっており、その一方で「モネの庭」が 2,505 円、「室戸岬」が 467 円の減少となっている。

(図 10-1 参考③) 調査地別県内平均消費額費目別内訳(円) [R3年]



調査地別に費目別の平均消費額をみると、室戸岬では「交通費」が、黒潮本陣では「飲食費」が、その他の調査地では「宿泊費」が最も多くなっている。

(参考)県外観光客1人当たりの県内消費額及び経済波及効果

	R3		R2		R1		H30				
	R3-R2 (対R2増減率)		R2-R1 (対R1増減率)		R1-H30 (対H30増減率)		H30-H29 (対H29増減率)				
県外観光客総数(人)	2,672,124	4,301	2,667,823	▲ 1,720,525	▲ 39.2%	4,388,348	▲ 24,223	▲ 0.5%	6,208	0.1%	
	客船以外 (乗船客数)	客船以外 (乗船客数)	客船以外 (乗船客数)	客船以外 (乗船客数)	客船以外 (乗船客数)	客船以外 (乗船客数)	客船以外 (乗船客数)	客船以外 (乗船客数)	客船以外 (乗船客数)	客船以外 (乗船客数)	
	▲ 2,670,655	3,624	▲ 2,667,031	▲ 1,664,575	▲ 38.4%	▲ 4,331,606	▲ 52	▲ 0.0%	▲ 4,331,658	(乗船客数)	
	(A)		(A)			(A)			(A)		
	(B)		(B)			(B)			(B)		
県外観光客一人当たり消費額(円)	26,202	1,908	24,294	▲ 912	▲ 3.6%	25,206	▲ 27	▲ 0.1%	25,233	▲ 596	▲ 2.3%
<内訳> 宿泊費	7,996	541	7,455	458	6.5%	6,997	248	3.7%	6,749	▲ 173	▲ 2.5%
飲食費	6,465	505	5,960	▲ 250	▲ 4.0%	6,210	8	0.1%	6,202	199	3.3%
交通費	7,134	889	6,245	▲ 802	▲ 11.4%	7,047	186	2.7%	6,861	▲ 405	▲ 5.6%
土産	3,686	▲ 94	3,780	▲ 217	▲ 5.4%	3,997	▲ 643	▲ 13.9%	4,640	▲ 175	▲ 3.6%
その他	921	67	854	▲ 101	▲ 10.6%	955	174	22.3%	781	▲ 42	▲ 5.1%
県外観光客の総消費額(百万円)	69,977	5,183	64,793	▲ 44,389	▲ 40.7%	109,182	▲ 118	▲ 0.1%	109,301	▲ 1,829	▲ 1.6%
	客船除く総消費額 (A) × (B)	客船除く総消費額 (A) × (B)	客船除く総消費額 (A) × (B)	客船除く総消費額 (A) × (B)	客船除く総消費額 (A) × (B)	客船除く総消費額 (A) × (B)	客船除く総消費額 (A) × (B)	客船除く総消費額 (A) × (B)	客船除く総消費額 (A) × (B)	客船除く総消費額 (A) × (B)	
	▲ 16	8	8	▲ 481	▲ 98.4%	489	▲ 646	▲ 56.9%	1,135	▲ 346	▲ 23.4%
	客船乗船客等による消費額	客船乗船客等による消費額	客船乗船客等による消費額	客船乗船客等による消費額	客船乗船客等による消費額	客船乗船客等による消費額	客船乗船客等による消費額	客船乗船客等による消費額	客船乗船客等による消費額	客船乗船客等による消費額	
	69,993	5,192	64,801	▲ 44,870	▲ 40.9%	109,671	▲ 764	▲ 0.7%	110,436	▲ 2,175	▲ 1.9%
生産誘発効果(百万円)	104,421		96,387			168,455			168,728		
生産誘発効果(倍)	1.49		1.49			1.54			1.53		

10.1.2 四季別

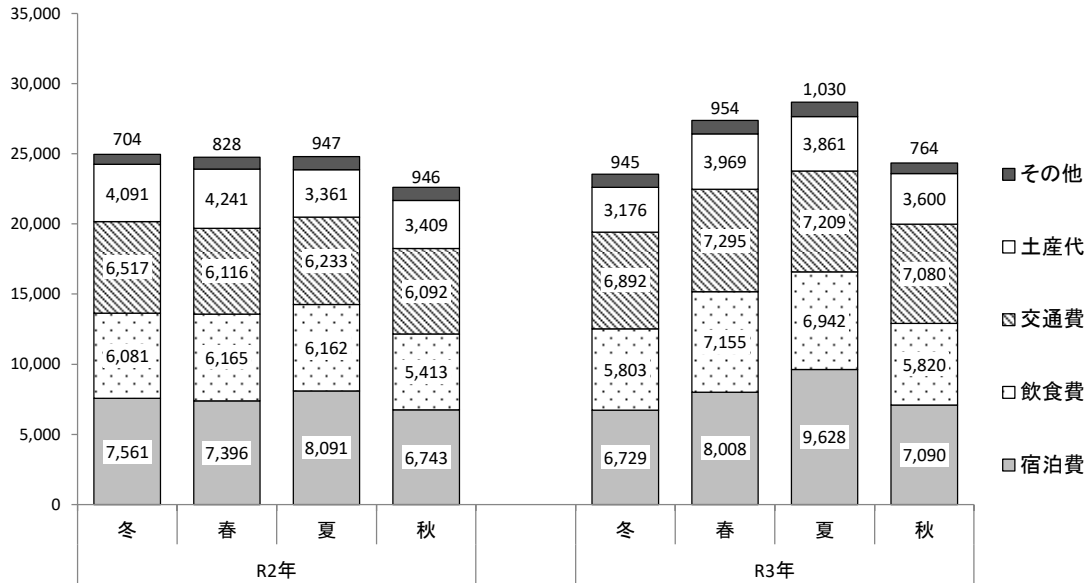
(表 10-2) 四季別県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [R2年、R3年]

		宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	平均消費額	前年差
冬	R2年	30	24	26	17	3	24,954円	▲ 1,409円
	R3年	29	25	29	13	4	23,545円	
春	R2年	30	25	25	17	3	24,746円	2,635円
	R3年	29	26	27	15	3	27,381円	
夏	R2年	32	25	25	14	4	24,794円	3,876円
	R3年	34	24	25	13	4	28,670円	
秋	R2年	30	24	27	15	4	22,603円	1,751円
	R3年	29	24	29	15	3	24,354円	

四季別の平均消費額を前年と比べると、春季が2,635円、夏季が3,876円、秋季が1,751円の増加となっており、冬季が1,409円の減少となっている。

費目別の割合を前年と比べると、「宿泊費」は夏季で増加、その他の時季は減少となっている。「飲食費」は冬季と春季で増加、秋季は横ばい、夏季は減少となっている。「交通費」は夏季で横ばい、その他の時季は増加となっている。「土産代」は秋季で横ばい、その他の時季で減少となっている。「その他」は冬季で増加、春季と夏季は横ばい、秋季は減少となっている。

(図 10-3) 四季別県内平均消費額費目別内訳(円) [R2年、R3年]



各費目について最も高くなった時季と平均消費額は、「宿泊費」が夏季の9,628円、「飲食費」が春季の7,155円、「交通費」が春季の7,295円、「土産代」が春季の3,969円、「その他」が夏季の1,030円となっている。

前年と比べ増加した時季と費目は、冬季の「交通費」と「その他」、春季の「土産代」を除くすべての費目、夏季はすべての費目、秋季は「その他」を除くすべての費目となっており、「交通費」はすべての時季で増加となっている。

10.2 年代別費目割合・平均消費額

(表 10-4) 年代別県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [R2年、R3年]

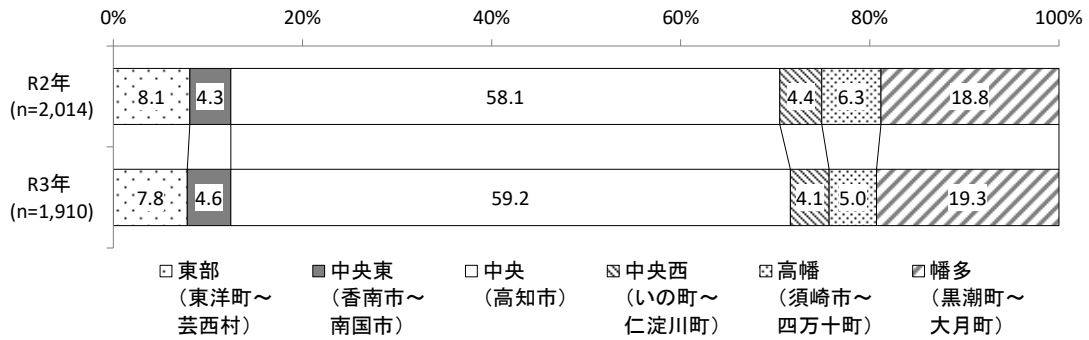
		宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	平均金額	前年差
10 代	R2年	17	29	32	17	5	17,176円	8,925円
	R3年	23	26	30	18	3	26,101円	
20 代	R2年	28	26	28	14	4	23,219円	3,701円
	R3年	30	25	30	12	3	26,920円	
30 代	R2年	30	25	25	16	4	22,783円	2,860円
	R3年	31	24	27	14	4	25,643円	
40 代	R2年	32	25	24	15	4	25,678円	397円
	R3年	31	25	26	14	4	26,075円	
50 代	R2年	28	26	27	16	3	24,390円	2,242円
	R3年	29	26	27	15	3	26,632円	
60代以上	R2年	34	21	25	16	4	24,928円	924円
	R3年	32	23	26	15	4	25,852円	

年代別の平均消費額は、前年と比べると、すべての年代で増加となっている。

費目別の割合を前年と比べると、「宿泊費」は40代と60代以上で減少、その他の年代は増加となっている。「飲食費」は60代以上で増加、40代と50代は横ばい、10代から30代は減少となっている。「交通費」は20代、30代、40代、60代以上で増加、50代は横ばい、10代は減少となっている。「土産代」は10代で増加、その他の年代は減少となっている。「その他」は10代と20代で減少、その他の年代は横ばいとなっている。

11 宿泊地域割合

(図 11-1) 県内宿泊地域割合(%) [R2年、R3年]



県内での宿泊地域をみると、「中央」が 59.2% で最も高く、次いで「幡多」が 19.3%、「東部」が 7.8%、「高幡」が 5.0%、「中央東」が 4.6%、「中央西」が 4.1% と続いている。前年と比べ、「中央」が 1.1 ポイント、「幡多」が 0.5 ポイント、「中央東」が 0.3 ポイントの増加、「東部」と「中央西」が 0.3 ポイント、「高幡」が 1.3 ポイントの減少となっている。

(表 11-2) 調査地別県内宿泊地域割合(%) [R3年]

	東部	中央東	中央	中央西	高幡	幡多
室戸岬	28.1	6.0	44.3	3.2	4.9	13.5
モネの庭	30.5	6.6	47.7	3.3	4.6	7.3
アンパンマン	8.1	15.4	67.5	4.9	0.8	3.3
龍河洞	7.5	10.1	69.6	4.0	3.5	5.3
桂浜	1.8	3.6	82.0	2.7	3.1	6.8
高知城	1.5	1.5	83.3	4.6	3.0	6.1
土佐和紙工芸村	2.7	3.5	66.4	20.4	3.5	3.5
黒潮本陣	4.3	1.1	48.4	4.3	24.7	17.2
四万十川	1.1	1.2	37.7	1.1	3.5	55.4
足摺岬	2.2	1.5	42.8	1.8	7.0	44.7
全体	7.8	4.6	59.2	4.1	5.0	19.3

※背景色＋太字は調査地ごとの上位2位まで。

調査地別に宿泊地域をみると、桂浜と高知城は「中央」「幡多」の順で、四万十川と足摺岬は「幡多」「中央」の順で、その他の調査地は「中央」と調査地がある地域の順で、それぞれ多くなっている。

(表 11-3)調査地別県内利用宿泊施設割合(%) [R3 年]

	ホテル・旅館	実家・知人宅	公共の宿	民宿・ユースホステル	その他
室戸岬	71.1	9.4	4.0	2.7	12.8
モネの庭	68.8	10.2	8.9	3.2	8.9
アンパンマン	80.7	15.9	0.0	1.7	1.7
龍河洞	83.9	7.8	1.4	1.8	5.1
桂浜	88.1	6.2	0.9	1.0	3.8
高知城	91.2	3.2	2.4	0.4	2.8
土佐和紙工芸村	76.6	7.5	7.5	0.0	8.4
黒潮本陣	53.0	17.0	12.0	7.0	11.0
四万十川	69.0	16.1	1.1	4.2	9.6
足摺岬	75.9	4.8	0.8	5.2	13.3
全体	77.5	9.1	3.1	2.7	7.6

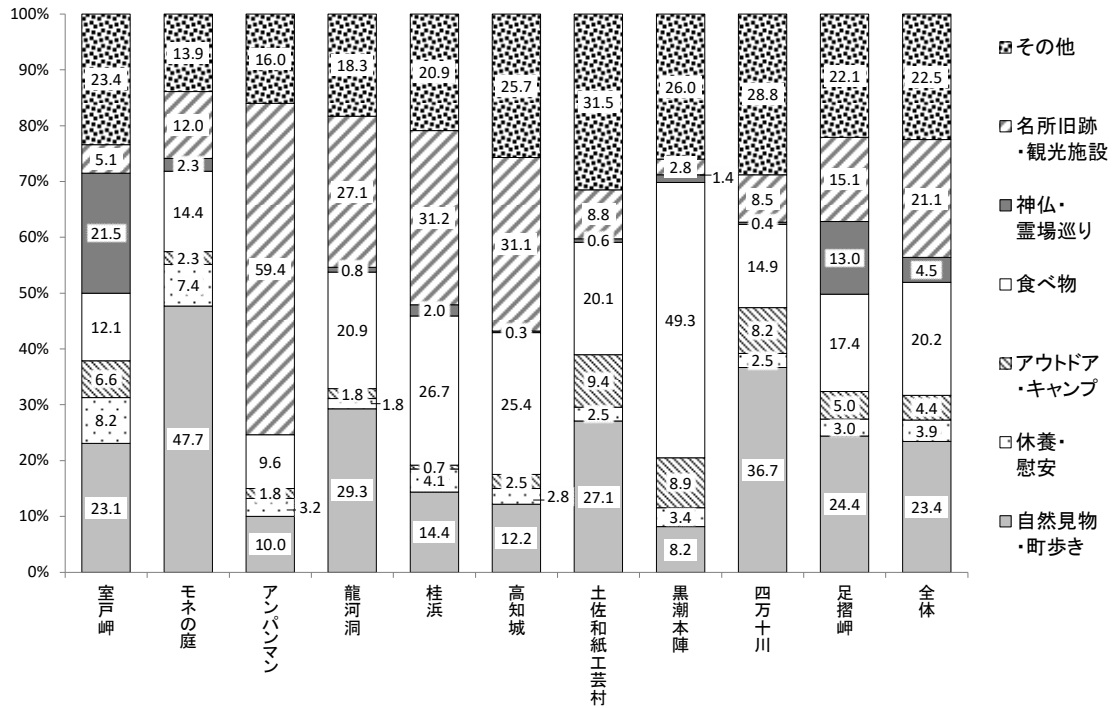
※背景色＋太字は調査地ごとの上位2位まで。

調査地別に宿泊施設をみると、室戸岬と土佐和紙工芸村と足摺岬は「ホテル・旅館」「その他」の順で、その他の調査地は「ホテル・旅館」「実家・知人宅」の順で、それぞれ多くなっている。

12 調査地別割合

12.1 旅行目的割合

(図 12-1) 調査地別旅行目的割合(%) [R3 年]



(表 12-2) 調査地別旅行目的割合(%) [R3 年]

	自然見物・町歩き	休養・慰安	アウトドア・キャンプ	食べ物	神仏・霊場巡り	名所旧跡・観光施設	その他
室戸岬	23.1	8.2	6.6	12.1	21.5	5.1	23.4
モネの庭	47.7	7.4	2.3	14.4	2.3	12.0	13.9
アンパンマン	10.0	3.2	1.8	9.6	0.0	59.4	16.0
龍河洞	29.3	1.8	1.8	20.9	0.8	27.1	18.3
桂浜	14.4	4.1	0.7	26.7	2.0	31.2	20.9
高知城	12.2	2.8	2.5	25.4	0.3	31.1	25.7
土佐和紙工芸村	27.1	2.5	9.4	20.1	0.6	8.8	31.5
黒潮本陣	8.2	3.4	8.9	49.3	1.4	2.8	26.0
四万十川	36.7	2.5	8.2	14.9	0.4	8.5	28.8
足摺岬	24.4	3.0	5.0	17.4	13.0	15.1	22.1
全体	23.4	3.9	4.4	20.2	4.5	21.1	22.5

※背景色+太字は調査地ごとの上位2位まで。

調査地別の旅行目的をみると、「室戸岬」は“その他”“自然見物”の順で多く、その他の内訳では、“なんとなく（ドライブを含む）”が最も多くなっている。

「モネの庭」は“自然見物・町歩き”“食べ物”の順で多くなっている。

「アンパンマンミュージアム」と「高知城」は“名所旧跡・観光施設”“その他”の順で多く、その他の内訳では、「アンパンマンミュージアム」は“帰省・知人訪問”が、「高知城」は“祭り・イベント”が最も多くなっている。

「龍河洞」は“自然見物・町歩き”“名所旧跡・観光施設”の順で多くなっている。

「桂浜」は“名所旧跡・観光施設”“食べ物”の順で多くなっている。

「土佐和紙工芸村」は“その他”“自然見物・町歩き”の順で多く、その他の内訳では、“帰省・知人訪問”が最も多くなっている。

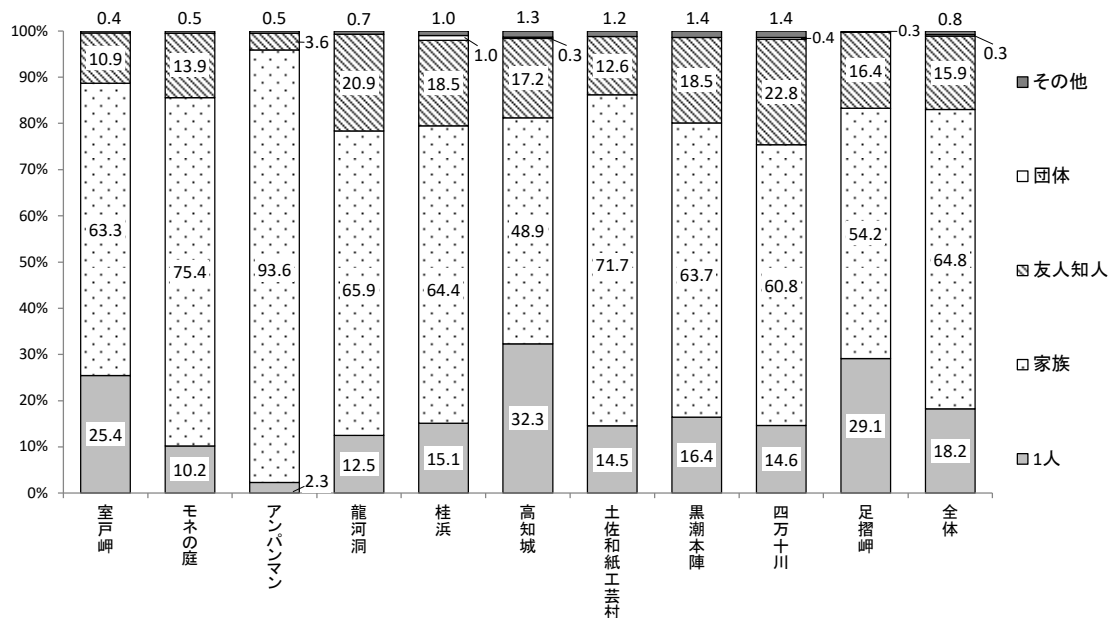
「黒潮本陣」は“食べ物”“その他”の順で多く、その他の内訳では、同率で“なんとなく（ドライブを含む）”“帰省・知人訪問”が最も多くなっている。

「四万十川」と「足摺岬」は“自然見物・町歩き”“その他”の順で多く、その他の内訳では、「四万十川」は“帰省・知人訪問”が、「足摺岬」は“なんとなく（ドライブを含む）”が最も多くなっている。

旅行目的別に割合が最も多くなった調査地をみると、“自然見物・町歩き”は47.7%で「モネの庭」、 “休養・慰安”は8.2%で「室戸岬」、 “アウトドア・キャンプ”は9.4%で「土佐和紙工芸村」、 “食べ物”は49.3%で「黒潮本陣」、 “神仏・霊場巡り”は21.5%で「室戸岬」、 “名所旧跡・観光施設”は59.4%で「アンパンマンミュージアム」となっている。

12.2 旅行形態割合

(図 12-3) 調査地別旅行形態割合(%) [R3年]

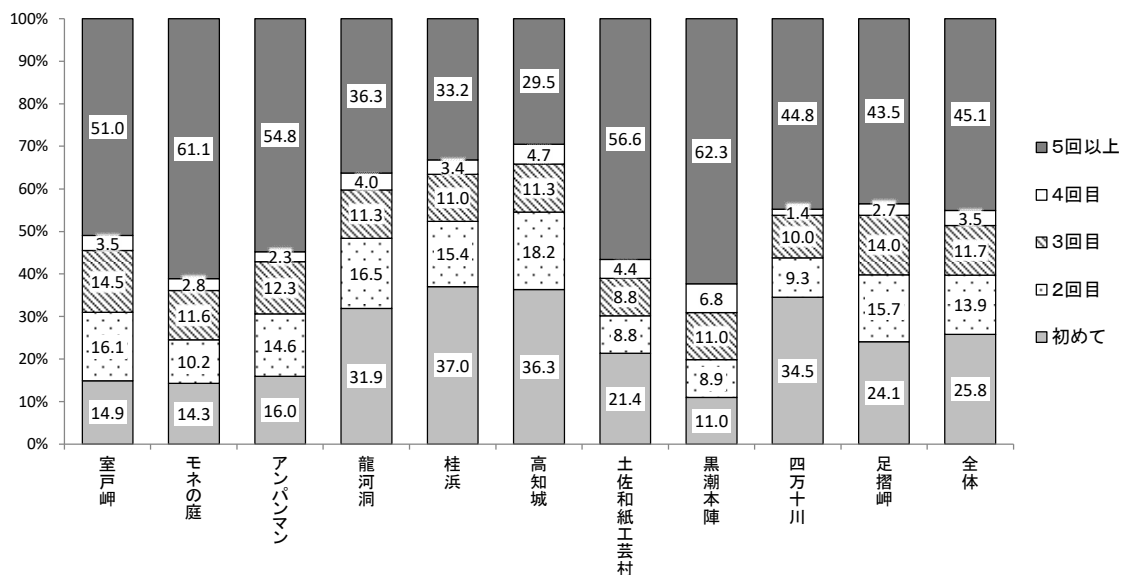


調査地別の旅行形態割合をみると、すべての調査地で「家族」が最も多く、次いで、室戸岬、高知城、土佐和紙工芸村、足摺岬は「1人」が、その他の調査地は「友人知人」が、それぞれ多くなっている。

旅行形態別に割合が最も多くなった調査地をみると、「1人」は32.3%で高知城、「家族」は93.6%でアンパンマンミュージアム、「友人知人」は22.8%で四万十川、「団体」は1.0%で桂浜、「その他」は1.4%で黒潮本陣と四万十川となっている。

12.3 過去来県回数割合

(図 12-4) 調査地別過去来県回数割合(%) [R3年]



(表 12-5) 過去来県回数割合(%) [H30年～R3年]

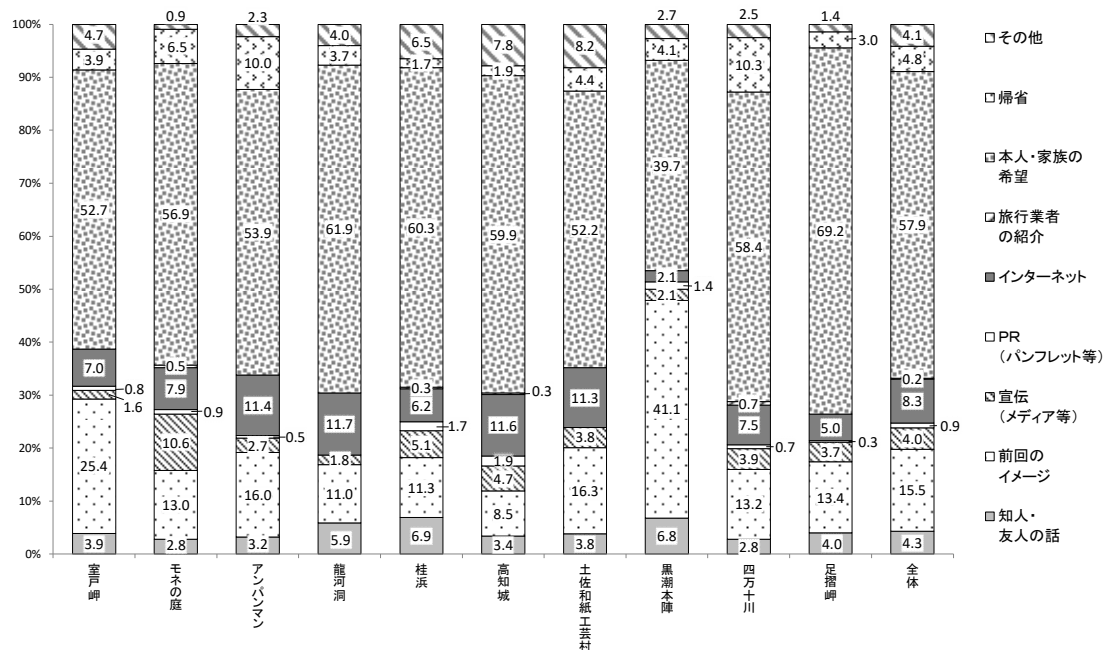
	初めて	2回目	3回目	4回目	5回以上
H30年	25.1	14.0	9.4	3.9	47.6
R元年	22.7	14.2	10.5	3.7	48.9
R2年	23.1	14.1	9.9	3.6	49.3
R3年	25.8	13.9	11.7	3.5	45.1

全体の過去来県回数は、「5回以上」が45.1%と最も多く、次いで「初めて」が25.8%、「2回目」が13.9%、「3回目」が11.7%、「4回目」が3.5%と続いている。

来県回数別に割合が最も多くなった調査地をみると、「初めて」は37.0%で桂浜、「2回目」は18.2%で高知城、「3回目」は14.5%で室戸岬、「4回目」は6.8%で黒潮本陣、「5回以上」は62.3%で黒潮本陣となっている。

12.4 動機割合

(図 12-6) 調査地別動機割合(%) [R3年]



(表 12-7) 調査地別動機割合(%) [R3年]

	知人・友人の話	前回のイメージ	宣伝(メディア等)	PR(パンフレット等)	インターネット	旅行者の紹介	本人・家族の希望	帰省	その他
室戸岬	3.9	25.4	1.6	0.8	7.0	0.0	52.7	3.9	4.7
モネの庭	2.8	13.0	10.6	0.9	7.9	0.5	56.9	6.5	0.9
アンパンマン	3.2	16.0	2.7	0.5	11.4	0.0	53.9	10.0	2.3
龍河洞	5.9	11.0	1.8	0.0	11.7	0.0	61.9	3.7	4.0
桂浜	6.9	11.3	5.1	1.7	6.2	0.3	60.3	1.7	6.5
高知城	3.4	8.5	4.7	1.9	11.6	0.3	59.9	1.9	7.8
土佐和紙工芸村	3.8	16.3	3.8	0.0	11.3	0.0	52.2	4.4	8.2
黒潮本陣	6.8	41.1	2.1	1.4	2.1	0.0	39.7	4.1	2.7
四万十川	2.8	13.2	3.9	0.7	7.5	0.7	58.4	10.3	2.5
足摺岬	4.0	13.4	3.7	0.3	5.0	0.0	69.2	3.0	1.4
全体	4.3	15.5	4.0	0.9	8.3	0.2	57.9	4.8	4.1

※ 背景色+太字は動機ごとの上位2位まで。

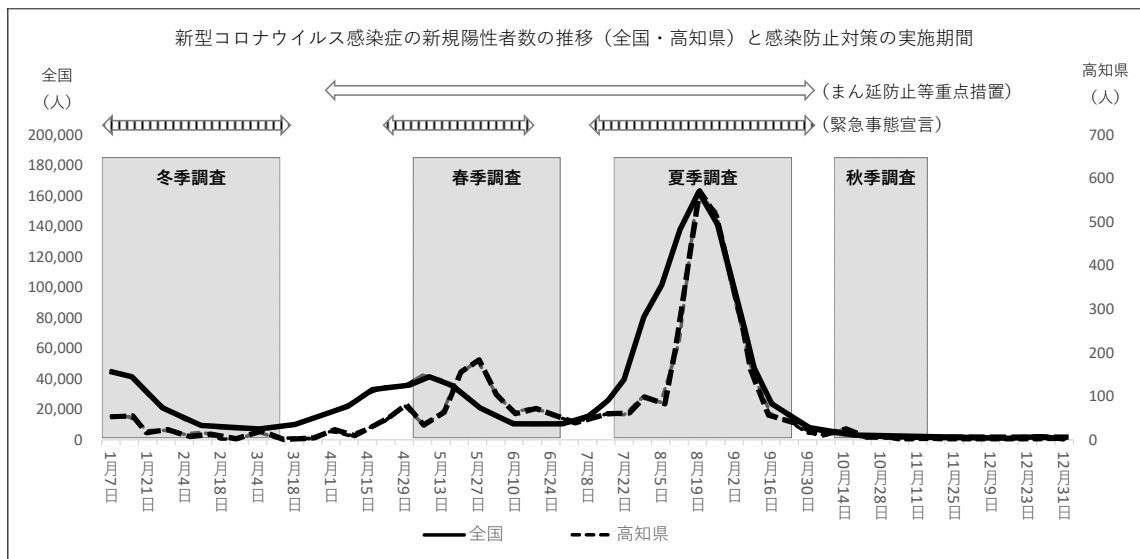
全体の動機割合をみると、「本人・家族の希望」が57.9%と最も多く、次いで「前回のイメージ」が15.5%、「インターネット」が8.3%、「帰省」が4.8%と続いている。

動機別に割合が最も多くなった調査地をみると、「知人・友人の話」は6.9%で桂浜、「前回のイメージ」は41.1%で黒潮本陣、「宣伝（メディア等）」は10.6%でモネの庭、「PR（パンフレット等）」は1.9%で高知城、「インターネット」は11.7%で龍河洞、「旅行業者の紹介」は0.7%で四万十川、「本人・家族の希望」は69.2%で足摺岬、「帰省」は10.3%で四万十川となっている。

13 <参考>委託事業者の所見

一昨年から続くコロナ禍の中、高知県への県外旅行者の入込数は苦戦を強いられている。令和3年を例にしても、4月には全国で再び感染が拡大。4都府県に3度目となる緊急事態宣言が発令。7月にはデルタ株により感染拡大するなか、一年の延期を経た東京オリンピック・パラリンピックが開催。しかし、11月には新たな変異株・オミクロン株が確認されたことを受け、政府は外国人の新規入国禁止に踏み切るなど、新型コロナウイルス感染症に翻弄される一年となった。

一方、高知県では、宿泊旅行を対象に交通費をキャッシュバックする「高知観光リカバリーキャンペーン」の実施、10月から12月にかけてJRグループによる大型観光キャンペーン「四国 destinations キャンペーン」、観光列車「志国土佐 時代の夜明けのものがたり」の運行などがあり、観光需要は本格的な回復までには至らないまでも、健闘したという印象を持っている。



今年度の観光客動向調査（以下、調査という）は、冬季・春季・夏季ともに首都圏を中心に緊急事態宣言が発令されている中での実施となり、特に夏季は高知県にまん延防止等重点措置の適用（8月27日～9月12日）されたことを受け、一時的な中断を余儀なくされるなど、昨年度に引き続き難しい状況下での対面調査となった。このような一年において遂行した今年度調査の分析結果を、旅行者の声なども参考にしながら報告する。

1. 県内消費額に関する分析と考察

ここでは、県内消費額の変動に影響を与える要因について分析した結果とその説明、および考察を記載する。

旅行の主要な目的が「観光」と回答した県外旅行者（n=2, 131）の、消費額と旅行者の行程や属性について、相関係数 r （2つのデータの関係の強弱を測る指標）を求めた結果は、表 13-1 のとおりである。

相関係数の見方の目安として用いられている尺度を参考に、この結果から得られる例を挙げると、「出発地からの距離」と「交通費」との間には強い正の相関があり、遠方から訪れる旅行者ほど交通費が多くなる傾向が強く、逆に負の相関がある「来県回数」と「出発地からの距離」に着目すれば、来県回数が多い旅行者ほど出発地からの距離が少ない（近い）傾向があることなどが分かる。

相関係数の大きさと同程度の尺度

$-1.0 \leq r \leq -0.7$	$-0.7 \leq r \leq -0.4$	$-0.4 \leq r \leq -0.2$	$-0.2 \leq r \leq 0.2$	$0.2 \leq r \leq 0.4$	$0.4 \leq r \leq 0.7$	$0.7 \leq r \leq 1.0$
強い負の相関	負の相関	弱い負の相関	ほとんど相関がない	弱い正の相関	正の相関	強い正の相関

（表 13-1）相関係数 [R3 年・観光目的]

		消費額の費目					行程		属性(※)			
		交通費	宿泊費	土産代	飲食費	その他	県内宿泊数	立寄数	出発地からの距離	来県回数	同行者の人数	回答者の年代
消費額の費目	交通費	1										
	宿泊費	0.223	1									
	土産代	0.107	0.310	1								
	飲食費	0.277	0.430	0.340	1							
	その他	-0.010	0.107	0.032	0.140	1						
行程	県内宿泊数	0.338	0.524	0.240	0.627	0.136	1					
	立寄数	0.234	0.308	0.153	0.345	0.088	0.366	1				
属性(※)	出発地からの距離	0.736	0.276	0.132	0.350	0.005	0.357	0.272	1			
	来県回数	-0.352	-0.263	-0.126	-0.242	-0.026	-0.267	-0.263	-0.439	1		
	同行者の人数	-0.307	0.050	0.001	-0.062	0.058	-0.041	-0.020	-0.131	-0.076	1	
	回答者の年代	-0.040	-0.011	0.045	-0.016	-0.001	-0.028	-0.041	-0.048	0.274	-0.035	1

(※) 「出発地からの距離」は、出発地の都道府県庁所在地を基準とした直線距離の概算値。

「来県回数」は、グループ全体で各個人の回答が得られている場合はグループの平均値。得られていない場合は回答者個人の回答値。

旅行者の行程「県内宿泊数」と「立寄数」、さらに属性の「出発地からの距離」は相互に弱い正の相関があり、一方が多ければ、もう一方も多くなるというように、互いに影響を及ぼしていることが分かる。

それとは逆に「来県回数」は県内消費額の「交通費」「宿泊費」「飲食費」、行程の「県内宿泊数」「立寄数」との間には弱い負の相関、「出発地からの距離」との間には負の相関がみられることから、高知県への来県が少ない旅行者ほど、県内消費額や県内宿泊数、立寄数が多くなる傾向があると考えられる。

上記で求めた相関係数を参考に、消費額に影響を与える傾向があると考えられる項目について重回帰分析（ある結果（目的変数）について、関連する複数の要因（説明変数）それぞれの影響度を数値化し、結果の予測を行う手法）を行った結果は、表 13-2 のとおりである。

なお、目的変数 y は「県内交通費・宿泊費・飲食費の合計」、説明変数の x_1 は「県内宿泊数」、 x_2 は「立寄数」、 x_3 は「出発地からの距離」としている。また、重回帰式の当てはまりの良さを表す指標、補正 R^2 （自由度調整済み決定係数）は 0.57 とマーケティング関連データとしては、評価ができる水準となった。

（表 13-2）重回帰分析 [R3 年・観光目的]

重回帰統計	
重相関 R	0.76073646
重決定 R^2	0.57871997
補正 R^2	0.57812578
標準誤差	11607.9774
観測数	2131

	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%
切片	963.081786	614.581278	1.56705357	0.11725092	-242.16122	2168.32479
県内宿泊数(泊)	7811.15183	251.653984	31.0392536	8.619E-175	7317.63825	8304.6654
立寄数(ヶ所)	1580.39392	205.873584	7.67652603	2.4738E-14	1176.65937	1984.12848
出発地からの距離(km)	35.3312433	1.48402083	23.8077813	2.891E-111	32.4209598	38.2415267

この結果から重回帰式は、以下のように表すことができる。

$$y = 963 + 7,811x_1 + 1,580x_2 + 35x_3$$

※ 現地消費額 = 963 + (7,811×県内宿泊数) + (1,580×立寄数) + (35×出発地からの距離)

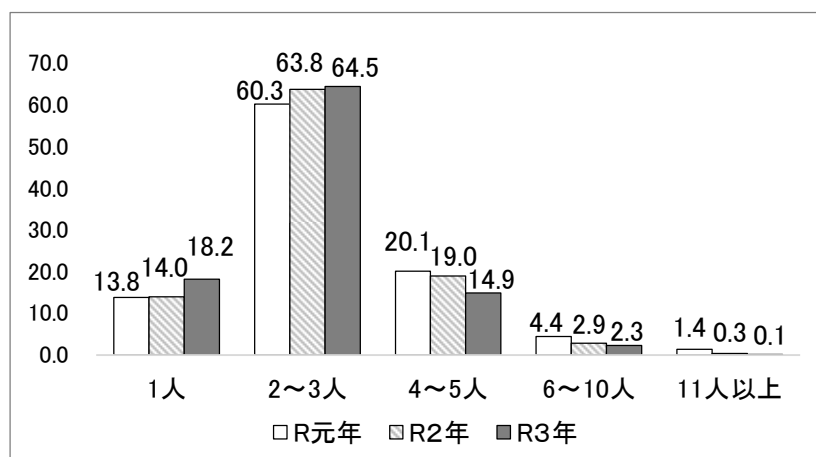
この重回帰式から、他の説明変数を固定した（変化させない）場合、現地消費額は県内宿泊数が1泊増えるごとに7,811円、立寄数が1ヶ所増えるごとに1,580円、出発地からの距離が1km増えるごとに35円増加すると予測できる。

このことをベースにして今年度の調査結果を見ると、発地ブロック別入込割合で関東が11.0%から14.6%に増加（P20：表4-1）、県内旅行日数の平均は2.0日から2.1日へ増加（P24：図5-1）するなど、県内消費額（P35：図10-1）が、R元年25,206円、R2年24,294円、R3年26,202円と、昨年より若干上がったことの要因と考えられる。

2. コロナ禍の影響による旅のスタイルの変化

本項では、今年度調査の結果からコロナ禍のなかで感染対策をしながら旅行をする旅のスタイルについて報告する。

（図13-3）同行者数割合（%）〔R元年～R3年〕



前々年度から今年度調査までの同行者数割合を表した図13-3をみると、「一人旅」は18.2%、「2～3人」は64.5%と過去最大となった。一方で、「4～5人」は14.9%、それ以上の人数は減少し、ここ3年では最小となっている。

これは「じゃらん宿泊旅行調査2021」（リクルートじゃらんリサーチセンター調べ）と同傾向であり、全国的なトレンド、旅のスタイルといえる。同じように、夫婦の旅行割合が上昇した（25.1%→29.7%）ことも同調査では報告している。高知県の今年度調査で「2～3人」は64.5%と過去最大となったことを考えれば、夫婦2人旅行の割合が高まったと推測できる。これも3密（密閉・密接・密集）を避けるというコロナ禍の影響とも考えられ、この傾向がしばらく続く可能性が高いといえる。

(表 13-4)人数別入込利用交通機関割合(%) [R3年]

	自家用車	レンタカー	バイク	JR	貸切バス	航空機	フェリー	高速バス	その他
1人	42.0	4.7	20.5	8.9	0.2	17.9	0.0	4.9	0.9
2~3人	80.3	4.0	3.3	1.7	0.0	9.5	0.0	1.3	0.1
4~5人	88.3	3.0	3.0	0.0	0.0	5.4	0.0	0.0	0.3
6~10人	83.6	3.6	3.6	0.0	0.0	7.3	0.0	1.8	0.0
11人以上	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

続いて、人数別入込利用交通機関割合を見てみると、一人旅では自家用車、レンタカー、バイクを除く約30%が公共交通機関を利用している。これは自家用車だけで大半を占める他の人数から見ても、大きな割合を占めているといえる。また、航空機利用も目立ち、遠距離からの旅行者が多いともいえる。

旅のスタイルとして一人旅の増加が、これからも増えると考えられるならば、受け入れ側として、MY遊バスのように周遊できる二次交通の拡充、高知らしい交通機関である路面電車のPR（乗り方や停留所近くの見どころを案内）、海の風景が美しい土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線、その先にある阿佐海岸鉄道のDMV（デュアル・モード・ビークル）など、移動しながら実は観光を楽しんでいるというコースづくりや、歴史や文化、レジャーなど体験メニューの積極的な紹介などといった対応が求められる。1人で旅行に来ても満足できることで、リピーターの獲得へとつなげていく。

3. 高知の観光素材の強みを、さらに磨いていく。

(表 13-5)旅行形態別の観光目的割合(%) [R3年] ※上位3位に色付け

	自然見物 町歩き	休養 慰安	イベント	アウトドア	スポーツ	食べ物	神仏 霊場巡り	買い物	名所旧跡 観光施設	なんとなく	ワーケー ション	その他
1人	20.9	2.2	5.5	3.0	0.6	13.8	9.9	0.0	19.6	24.2	0.0	0.3
家族	28.1	5.5	0.7	5.2	0.4	22.0	4.7	3.2	26.4	3.9	0.0	0.0
友人・知人	24.2	1.9	0.8	5.2	0.3	33.7	2.2	0.3	17.7	13.9	0.0	0.0
団体	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	30.0	0.0	0.0	20.0	0.0	30.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
全体	26.3	4.3	1.5	4.9	0.4	22.7	5.1	2.1	23.7	8.9	0.0	0.1

(表 13-6)発地ブロック別の観光目的割合(%) [R3年] ※上位3位に色付け

	自然見物 町歩き	休養 慰安	イベント	アウトドア	スポーツ	食べ物	神仏 霊場巡り	買い物	名所旧跡 観光施設	なんとなく	ワーケー ション	その他
北海道・東北	13.6	0.0	0.0	4.6	0.0	27.3	13.6	0.0	22.7	18.2	0.0	0.0
関東	29.7	4.0	4.7	4.0	0.7	26.0	1.7	0.0	24.7	4.0	0.0	0.7
北陸・新潟	26.7	6.7	0.0	0.0	0.0	20.0	6.7	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0
甲信・東海	30.0	4.0	1.0	5.0	0.0	16.0	4.0	0.0	28.0	12.0	0.0	0.0
近畿	22.2	4.8	1.5	7.7	0.2	30.8	3.8	1.5	21.4	6.1	0.0	0.2
中国	26.5	3.8	0.3	4.1	1.4	23.0	4.1	0.7	27.2	8.9	0.0	0.0
四国	27.1	4.8	1.0	3.2	0.1	16.3	7.8	4.6	22.9	11.9	0.0	0.3
九州・沖縄	33.3	1.2	0.0	6.2	1.2	16.1	3.7	0.0	24.7	13.6	0.0	0.0

今年度調査の結果から、観光の主な目的の割合をみると、旅行形態別でも発地ブロック別でも同じような傾向であり、高知県内での観光の強みは「自然見物・町歩き」、「食べ物」、「名所旧跡・観光施設」であることがわかる。

これら3つは県外旅行者が高知に期待している要素ともいえる。それぞれの強みに磨きをかけつつ、「自然見物・町歩き×食」「名所旧跡・観光施設×食」というように、自然や食、歴史文化を組み合わせたモデルコース等をさらに発信していく必要がある。

調査地でも、県外旅行者から「観光スポットの近くにレストラン・食事処があればもっといいと思う」、「飲食店マップ・パンフレットがあれば良い」などといった声をよく聞く。そこをつないであげることで、消費額、滞在時間の増加につながっていく。

令和5年春からは牧野富太郎博士をモデルにした連続テレビ小説「らんまん」が放送されることが決定し、すでに県内観光団体・施設は動き出している。令和4年は牧野富太郎博士や自然・花に関わる地域や施設にスポットが当たるだろうから、それにご当地グルメや歴史文化を組み合わせながら、多面的な観光をPRできるかが鍵になると考えられる。

最後になるが、年間を通じて調査地では「ひろめ市場の雰囲気が高知らしく感じる」、「居酒屋では地元の人と仲良くなれるし、友好的に接してくれる」、「日曜市のおばちゃんの対応が良かった」など、高知に住む地元民と触れ合うことで好印象を持つ旅行者の声をよく聞く。まさに高知県民そのものが観光資源のひとつであり、持続可能な観光素材であることを認識して、今後の高知県観光振興につなげてあげてほしいと思っている。

高知県観光客アンケート調査票

Q1. あなたのお住まいはどこですか。国内にお住まいであれば都道府県名、海外であれば国名をご記入下さい。また、高知県内にお住まいの場合は市町村名をご記入下さい。

(都道府県名: _____)	海外の場合 (国名: _____)
↓ 高知県内の場合 → (市町村名 _____)	

Q2. あなたの性別、年齢を選んで下さい。※それぞれ1つだけ

性別 : 1. 男性 2. 女性
年齢 : 1. 10歳未満 2. 10歳代 3. 20歳代 4. 30歳代 5. 40歳代 6. 50歳代 7. 60歳代 8. 70歳代 9. 80歳以上

Q3. 今回の旅行は日帰りですか、宿泊ですか。※1つだけ

宿泊であれば、何泊か、そのうち県内では何泊するか、いくつの施設に宿泊するかをご記入下さい。また、県内ではどの地域の、どのような施設に何泊するかをご記入下さい。※いくつでも

1. 日帰り	2. <u>宿泊</u>	↓ 宿泊した施設の数 ↓ 宿泊数 _____ 泊 → そのうち県内 _____ 泊 ⇒ 県内宿泊施設数 _____ 施設
--------	--------------	---

＜県内宿泊施設＞

- | | |
|-----------------------------------|-------------------|
| 1. 実家や知人・親戚宅 () 泊 | 2. 旅館 () 泊 |
| 3. ホテル () 泊 | 4. ペンション・民宿 () 泊 |
| 5. 保養所・研修所 () 泊 | 6. キャンプ場 () 泊 |
| 7. (キャンプ場以外の) 車中泊・交通機関内での宿泊 () 泊 | |
| 8. 別荘・リゾートマンション () 泊 | 9. 会員制の宿泊施設 () 泊 |
| 10. ユースホステル・ライダーズイン () 泊 | 11. 公共の宿 () 泊 |
| 12. その他 () 泊 | |

＜県内宿泊場所＞

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1. 東部地域 (東洋町～芸西村) () 泊 | 2. 中央東地域 (香南市～南国市) () 泊 |
| 3. 中央地域 (高知市) () 泊 | 4. 中央西地域 (いの町～仁淀川町) () 泊 |
| 5. 高幡地域 (須崎市～四万十町) () 泊 | 6. 幡多地域 (黒潮町～大月町) () 泊 |

Q4. 今回のご旅行の主要な目的は何ですか。※1つだけ

1. ビジネス	
2. 観光	
「2. 観光」を選んだ場合、今回のご旅行の主な目的を1つ教えてください。	
01 自然見物・町歩き	02 休養・慰安 03 祭り・イベント
04 登山・アウトドア・キャンプ	05 スポーツ (プロ野球キャンプ・観戦など)
06 食べ物 (味覚・酒)	07 神仏・霊場巡り 08 買い物
09 名所旧跡・観光施設などの見学・行楽	10 なんとなく (ドライブ等含む)
11 ワークেশョン	12 その他 ()
3. 帰省・知人訪問	
4. (1～3のどれでもない) その他	

Q5. 今回のご旅行のきっかけを教えてください。

1. 知人・友人の話	2. 前回のイメージ	3. 宣伝 (TV・ラジオ・雑誌等)
4. PR (パンフレット・キャンペーン等)	5. インターネット (携帯電話含む)	7. 来たかった・家族の希望
6. 旅行業者の紹介・ツアー参加	8. 帰省	9. その他

Q6. 今回のご旅行の企画・手配について教えてください。

1. 自分で旅行プランを立てて、宿泊・交通機関なども自分で手配した
2. 旅行プランを決めて、宿泊や高知への往復には旅行代理店のフリープランを使っている
3. 旅行代理店でコースが決められている添乗員付きの旅行プランを使っている

Q7. あなたも含めて、何人での、どなたと一緒にの旅行ですか。 ※子供や乳幼児も含む

() 人

2人以上の場合
 → 1. 家族 2. 友人 3. 職場・学校等の団体旅行 4. その他

Q8. ご一緒のみなさん全員の、今いる観光地の訪問が何回目かご存じですか。 ※回答の合計はQ7と一致

1. 知らない 2. 知っている → 1回目の人数 () 人、2回目の人数 () 人
 3回目の人数 () 人、4回目以上の人数 () 人

Q9. (県外にお住まいの方のみお答え下さい)

あなたは、高知県の訪問が何回目ですか。

1. はじめて 2. 2回目 3. 3回目以上 () 回目

Q10. (県外にお住まいの方のみお答え下さい)

ご一緒のみなさん全員の、高知県の訪問が何回目かご存じですか。 ※回答の合計はQ7と一致

1. 知らない 2. 知っている → 1回目の人数 () 人、2回目の人数 () 人
 3回目の人数 () 人、4回目以上の人数 () 人

Q11. 今回の旅行で訪れた県内の観光地と移動に用いた交通機関をご記入下さい。これから訪問する観光地についても予定をご記入下さい。 ※観光地は一覧表より、交通機関は下表より番号をお選び下さい。

また、この県に訪れる前・後に立ち寄った(立ち寄る予定の)都道府県があれば記入下さい。

高知県までの主な交通機関 [] 高知県内での主な交通機関 []

ここに来る前にいた場所

居住地 → [] → [] → [] → [] → [] → [] → 調査地点

交通機関 [] 交通機関 [] 交通機関 [] 交通機関 [] 交通機関 [] 交通機関 []

現在地

これから行く予定の場所

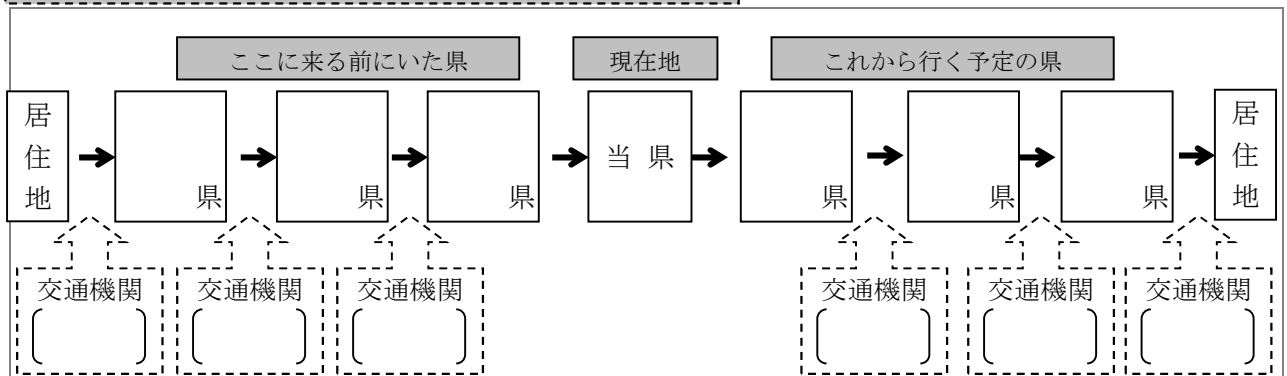
調査地点 → [] → [] → [] → [] → [] → [] → 居住地

交通機関 [] 交通機関 [] 交通機関 [] 交通機関 [] 交通機関 [] 交通機関 []

【表】交通機関

- | | | | | |
|-----------------------|-------------|-------------|---------------|------------|
| ① J R 新幹線 | ② J R 在来線 | ③ 私鉄・地下鉄 | ④ モノレール | ⑤ - 1 貸切バス |
| ⑤ - 2 観光バス (MY遊バス等含む) | ⑥ 高速バス | ⑦ 市内バス・路線バス | | |
| ⑧ 路面電車 | ⑨ タクシー・ハイヤー | ⑩ レンタカー | ⑪ 自家用車、社用・公用車 | |
| ⑫ 飛行機 | ⑬ フェリー | ⑭ バイク | ⑮ その他 | |

当県以外に立ち寄り都道府県がある場合はご記入下さい



【表】交通機関

- ① J R 新幹線 ② J R 在来線 ③ 私鉄・地下鉄 ④ モノレール ⑤ - 1 貸切バス
- ⑤ - 2 観光バス (MY遊バス等含む) ⑥ 高速バス ⑦ 市内バス・路線バス
- ⑧ 路面電車 ⑨ タクシー・ハイヤー ⑩ レンタカー ⑪ 自家用車、社用・公用車
- ⑫ 飛行機 ⑬ フェリー ⑭ バイク ⑮ その他

Q12. 今回の旅行で、使う費用（これから使う予定も含めて）を教えてください。

1人当たりの費用を、下欄の項目別にご記入下さい。

- ※ 交通費は高速料金やガソリン代や駐車場代を含め、県外・県内分を分けて記入
- ※ 今回の旅行がパック旅行である場合、費用が県内のみか、県外分を含むかを選択
- ※ ← 表内の回答がグループ合計の場合にはチェック

	使用費用		使用費用
①交通費	(県内分) 円		(県外分) 円
②宿泊費	(県内分) 円		
③土産代	(県内分) 円		
④飲食費	(県内分) 円		
⑤入場料	(県内分) 円		
⑥その他	(県内分) 円		
⑦パック料金			円
		↑ <input type="checkbox"/> 県内分のみ もしくは <input type="checkbox"/> 県外分含む	

Q13. ご意見・ご感想（他県と比べて良い点、悪い点等もお聞かせ下さい）

- ※ 冬期は特に、この季節に高知へ来られた理由、高知の魅力など（冬季対策の参考意見として）をお聞かせ下さい

※調査票コード	都道府県	調査地点ID	調査年月日	調査時刻	ID
1. 観_共通_日				:	

- ・高知県では、高知県観光キャンペーンの取組の中で、「龍馬パスポート事業」を実施しています。
- ・また、観光客の満足度向上のため、「おもてなしタクシー」の取組を進めています。

Q1 「龍馬パスポート」をご存知ですか。

- 1 出発前から知っていた 2 旅行中に知った 3 知らなかった

Q2 「龍馬パスポート」をお持ちですか。(Q2 で1または2と答えた方のみ。)

- 1 持っている (パスポート種別: 1 青 2 赤 3 ブロンズ 4 シルバー 5 ゴールド)
2 現在申請書にスタンプを集めている。 3 持っていない

Q3 「おもてなしタクシー」をご存じですか。

- 1 知っている 2 知らなかった

Q4 「おもてなしタクシー」を利用したことがある方にお聞きします。

「おもてなしタクシー」の接客マナーについて

- 1 大変良い 2 良い 3 ふつう 4 悪い 5 大変悪い

【理由】〔

〕

- ・高知県では、関係団体と連携して新型コロナウイルス感染拡大防止のガイドライン等の遵守に努めています。

Q5 観光施設(屋内)における感染防止対策はどうでしたか。

- 1 大変良い 2 良い 3 普通 4 悪い 5 大変悪い 6 今回は利用なし
特に印象に残った施設 ()

Q6 体験型観光(ガイド付きのプログラム等)における感染防止対策はどうでしたか。

- 1 大変良い 2 良い 3 普通 4 悪い 5 大変悪い 6 今回は利用なし
特に印象に残った事業者 ()

■アフターコロナの高知観光について

Q7 今後、1～2年の間に行ってみたい旅行ジャンルは何ですか。(高知県内には限りません)

- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| 01 自然観光 | 02 温泉旅行 | 03 グルメ | 04 歴史・文化観光 |
| 05 海浜リゾート | 06 テーマパーク | 07 都市観光 | 08 町並み探索 |
| 09 ロングステイ | 10 ショッピング | 11 世界遺産巡り | 12 和風旅館 |
| 13 リゾートホテル | 14 動物園・水族館 | 15 観光列車旅行 | 16 高原リゾート |
| 17 おしゃべり旅行 | 18 芸術鑑賞 | 19 その他 () | |

理由 ()

Q8 コロナの状況を踏まえ、旅行先を選ぶ際に重視する要素は何ですか。

自由回答 ()

Q9 コロナの状況を踏まえ、他県と比較して高知県に優位性があると思う観光地はどこですか。

自由回答 ()

Q10 高知県でのワーケーションに関心がありますか。

※ 観光地やリゾート地でテレワーク(リモートワーク)を活用し、働きながら休暇をとる過ごし方

- 1 関心がある 2 関心がない 3 ワケーションを知らなかった